平成28年度

年　　報

第　24　号

福井県自然保護センター

はじめに

地球上に生命が誕生してから約40億年。その長い年月の間に生命は多様な進化を遂げ、現在その種数は500万～3,000万種といわれています。しかし、生物多様性は過去から現在まで順調に増大してきたのではなく、恐竜の絶滅に代表されるような大量絶滅が、地球史上５回あったといわれています。そして今、多くの科学者により、地球史上６回目の大量絶滅が静かに確実に進行しているという説が報告されるようになってきました。過去５回の大量絶滅の原因は、火山の噴火や隕石の衝突など、避けることができない天災によるものでした。ところが現在進行している６回目の大量絶滅の一番の原因は、私たち人類の活動の拡大によるものです。私たちの生活を支える森林、河川、湿地、草地、湖沼、海洋などの生態系は、現在、世界各地で悪化の一途をたどっており、自然環境や生物多様性の保全・再生は、私たちの最重要課題のひとつとなっています。福井県においても、生物多様性の危機は同様に進行しており、平成28年に発刊された改訂版福井県の絶滅のおそれのある野生動植物（レッドデータブック）によれば、選定された種の総数は1,264種で、前回（平成14～16年）のレッドデータブックから465種も増加しています。さらに県域絶滅（過去に生息・生育記録があったが現在野生では確認できないもの）が34種（前回から10種増加）、県域絶滅危惧Ⅰ類（種の存続上危機的水準にまで減少し絶滅の危機に瀕していると推察されるもの）には、316種（同84種増加）が選定されるなど、本県においても種の絶滅速度は確実に速くなってきていると推察され、福井県においても大量絶滅が始まっているとの説を支持する結果が得られています。

福井県自然保護センターはこのような状況を踏まえ、本県の自然環境の実態把握に努めるとともに、県民の皆様に対し、その恩恵と保全の在り方について考える場を提供することを目的として、平成２年７月に開設され、本年度で開設28年目を向かえました。開館以来、当センターでは、自然系展示、天体観望会、自然観察の森ガイド、県内各地での自然観察会や自然再生活動、資料収集や調査研究などの事業を通し、一貫して本県の自然の素晴らしさや楽しさを発信し、広く県民の中に、自然に親しみ、自然を守り育てる心を育んできました。とりわけ近年は、福井の生物多様性を守り育てるため、絶滅危惧種の生息を確保するための生息環境の保全・再生や生息域外保全活動、生態系に被害を及ぼし在来種の生息を脅かしている侵略的な外来生物を取り除く活動に多くの力を注ぐようになってき

ました。

このように、近年の自然環境保全への関心の高まりや必要性を考えると、当センターの重要性はますます高まっているといえます。そのため当センターでは、当該年度の事業活動を取りまとめ、その歩みを記録として残す「年報」を毎年発刊しております。今後も当センターでは、この資料を基盤として時代や社会の情勢に即した自然環境の現状把握に努め、そこから得られた情報の発信と自然環境保全活動に努めてまいります。

なお最後に、日頃より当センターの事業を支えていただいております運営会議委員、ナチュラリストリーダー、関係団体の皆様など多くの方々にこの場を借りて厚くお礼申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

平成29年11月

福井県自然保護センター所長　松　村　俊　幸

目　　次

Ⅰ　自然保護センターの概要 …… 1～3

1　施設の概要 …… 1
2　施設の平面図・面積表 …… 2
3　組織と事業概要 …… 3

Ⅱ　自然保護センターの事業の展開 …… 4～29

1　展示事業 …… 4
（1）常設展示　（2）生体展示　（3）写真展示など　（4）入館者数

2　指導普及事業 …… 5～19
（1）自然観察会などの企画開催　（2）普及誌の発行
（3）インターネットによる自然情報の発信
（4）自然愛護　（5）自然に関する相談
（6）館内・自然観察の森ガイド
（7）重要里地里山保全地区、生き物共生ホットエリア（重点活動地域）への支援事業
（8）外来魚防除対策事業　（9）特定外来生物ウチダザリガニ駆除活動
(10) 生き物百葉箱事業　(11) 天体観望会など

3　研修養成事業 …… 20～21
（1）ナチュラリスト養成　（2）ナチュラリストリーダー養成　（3）研修生の受け入れ

4　資料収集事業 …… 22
（1）標本資料など　（2）視聴覚資料　（3）文献資料　（4）天文写真資料

5　調査研究事業 …… 23～25
（1）渡り鳥保全調査（鳥類繁殖状況調査）
（2）ガンカモ科鳥類生息調査（鳥類生息調査事業）
（3）カワウ生息調査
（4）自然観察の森周辺環境調査
（5）ブナ科樹木の豊凶調査（ツキノワグマ保護管理計画推進事業）
（6）ヤシャゲンゴロウ生息域外保全事業
（7）ブナ林衰退地域における総合植生モニタリング手法の開発
（8）Ciconia（福井県自然保護センター研究報告）の発行

6　その他 …… 26～29
（1）福井県自然保護関係機関連絡会議　（2）大型野生動物の保定・放獣に関わる指導協力
（3）鳥インフルエンザのパトロール　（4）職員の派遣
（5）学会・研究集会・シンポジウムでの発表職員の派遣　（6）委員の受託など
（7）特別企画など　（8）事業協力を行った関係団体

Ⅲ　そ　の　他 …… 30～37

1　１年のあゆみ …… 30～32
2　施設利用実績 …… 33～34
3　運営会議 …… 35
4　気象データ …… 35
5　関係条例・規則 …… 36～37

Ⅰ　自然保護センターの概要

1　施 設 の 概 要

1．所在地：福井県大野市南六呂師169－11－2

2．施設の概要

（1）本館（平成２年度完成、平成14年度展示更新）

①面積　建て面積：1,151.13㎡　　延べ面積：2,111.27㎡

②構造　木造・鉄筋コンクリート混構造３階建（地下１階、地上２階）

③施設　１階：展示室、レクチャーホール、ボランティアルーム、事務室等

２階：展示室、森の学習室、工作室、会議室等

地下：資料室、飼育室等

（2）観察棟（平成元年度完成）

①面積　建て面積：209.62㎡　　延べ面積：418.86㎡

②構造　鉄筋コンクリート３階建て

③施設　１階：プラネタリウム室（座席44名）、事務室

２階：野外観察室（観察用望遠鏡設置）

３階：天体観測室（80㎝反射式望遠鏡１台、付属望遠鏡設置）

（3）自然観察小屋２棟（平成３年度完成）

①面積　１棟の建て面積：19.72㎡　　１棟の延べ面積：27.36㎡

②構造　木造２階建て

③施設　１階、２階：動物観察室

（4）自然観察の森（平成４年度完成）

①面積　約28ha

②施設　広　場：学習広場、ファミリー芝生広場

遊歩道：アプローチ道路やとんぼの小径など

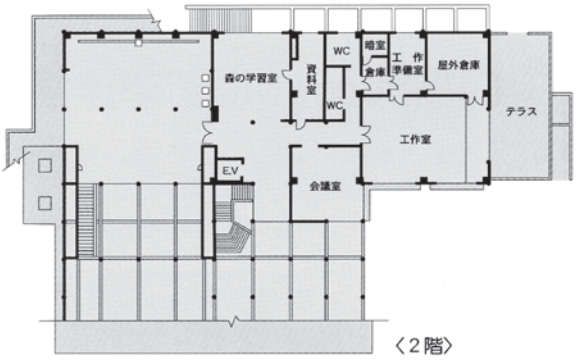
湿原等：妻平湿原、馬取池、とんぼの池

3．自然保護センター開館日

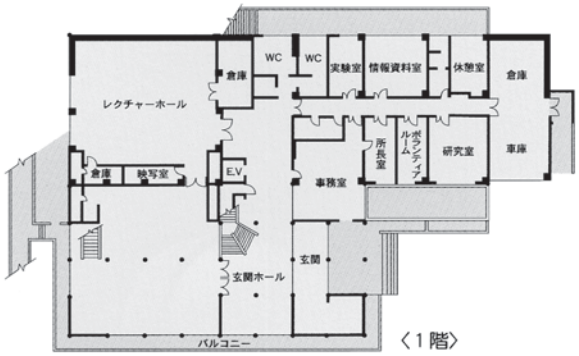
平成２年７月12日

2　施設の平面図・面積表

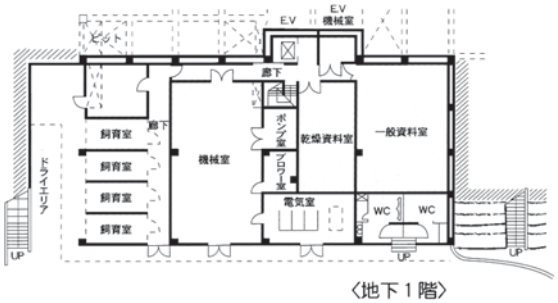
本館



〈2階〉



〈1階〉



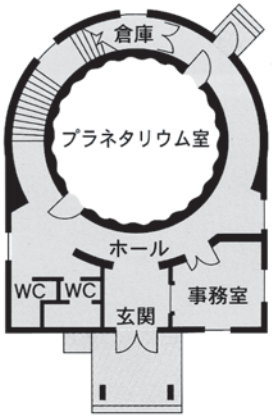
〈地下1階〉

本館面積表(2,111m²)

地階		1階		2階	
室名	面積(m²)	室名	面積(m²)	室名	面積(m²)
一般資料室	69	展示室	313	展示室	277
乾燥資料室	43	レクチャーホール	165	森の学習室	60
飼育準備室	23	事務室	61	資料室	28
飼育室(4室)	54	所長室	20	工作室	84
機械室	95	ボランティアルーム	19	工作準備室	22
電気室	28	研究室	40	会議室	52
廊下・ブロワー室	103	休憩室	28	倉庫	43
ポンプ室・エレベーター他		情報資料室	35	暗室・便所・その他	67
		実験室	20		
		映写室	11		
		車庫	76		
		倉庫	29		
		廊下・更衣室・ポーチ玄関・便所・他	246		
合計	415(m²)		1,063(m²)		633(m²)

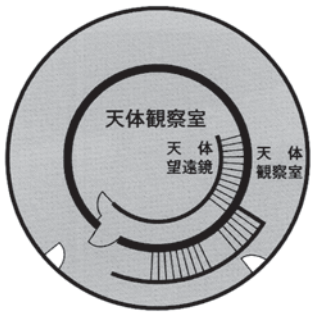
観察棟

1F



2F

3F

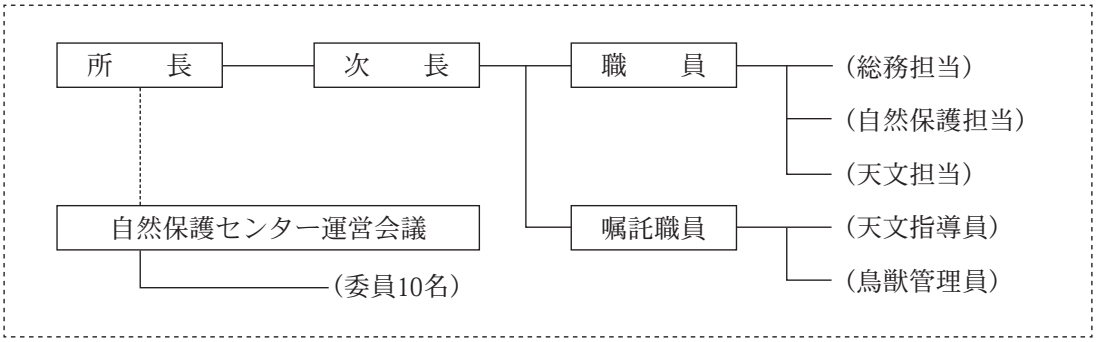


観察棟面積表(418m²)

階	室名	面積(m²)	計
1	プラネタリウム室	45	132m²
	ホール	41	
	事務室	16	
	玄関・倉庫・その他	30	
2	観察室	111	154m²
	倉庫	15	
	その他	28	
3	天体観察室(内)	45	132m²
	天体観察室(外)	67	
	階段	20	
合計			418m²

1階　プラネタリウム室　44名収容　スクリーン直径6.5m
2階　野外観察室　50名収容　7台の野外観察用望遠鏡－動・植物の観察
3階　天体観察室　50名収容　口径80cmの反射望遠鏡1台　口径10cmの屈折望遠鏡2台
口径20cmの屈折望遠鏡1台　口径20cmの反射望遠鏡3台
TVカメラ装置の設置

3　組織と事業概要



■職員構成
（平成28年度）

職種＼担当	所　長	次　長	総　務	自然保護・天文	計
事　　務		1	1	2	4
自然保護職	1			1	2
教　職　員				1	1
嘱託職員				2	2
計	1	1	1	6	9

■事業概要（平成28年度）

1．展示事業　・・・・・　○常設展示　　○生体展示　　○写真展示（随時）　など

2．指導普及事業　・・・　○自然観察会・自然講座・天文教室の実施
○普及誌の発行、自然情報・イベント情報の発信
○自然愛護事業（傷病鳥獣救護を含む）の実施
○自然に関する相談、対応
○館内・自然観察の森ガイドの実施
○重要里地里山の保全活動、生き物共生ホットエリア等への支援事業
○外来魚防除対策事業　　○生き物百葉箱推進事業
○天体観望会・プラネタリウムの実施

3．研修養成事業　・・・　○ナチュラリスト、ナチュラリストリーダーの養成
○研修生の受け入れ

4．資料収集事業　・・・　○標本・視聴覚・文献・天文写真資料の収集および保管

5．調査研究事業　・・・　○渡り鳥保全調査　　○ガンカモ科鳥類生息調査
○カワウ生息調査　　○自然観察の森周辺環境調査
○ブナ科樹木の豊凶調査（ツキノワグマ保護管理計画推進事業）
○ヤシャゲンゴロウの生息域外保全事業

6．その他　・・・・・・　○福井県自然保護関係機関連絡会議
○大型野生動物の捕獲・放獣に関わる指導協力
○事業協力を行った関係団体
○職員の派遣

Ⅱ　自然保護センターの事業の展開

1　展　示　事　業

○自然保護に関する情報や調査研究、資料収集の成果を公開し、県民に自然の素晴らしさと保護の重要性を伝えた。

（1）常設展示

本館（平成14年度に更新）

【１階】
「自然観察へ行こう」
「福井の水辺を考える」
「刈込池のブナ林」
「レクチャーホール標本展示」

【２階】
「森の仲間たち」　「福井の自然観察三昧」
「山のめぐみ」　「失われ行く生物多様性」
「生物を守る努力」
「地球環境問題を考える・エコロ人度チェック」
「森の学習室」　「ビデオコーナー」

観察棟

【１階】
「太陽系展示パネル」
「天体写真」コーナー

【２階】
「隕石」コーナー
「彗星」写真コーナー

（2）生体展示

・生息域外保全事業で当センターにおいて増殖しているヤシャゲンゴロウ成虫の展示
・北潟湖に生息するテナガエビ、モクズガニや池ヶ原湿原に生息するドジョウ等の展示
・越前市白山に生息していたスッポン、イシガメ、クサガメ等のカメ類の展示
・大野市内で捕獲したカブトムシとクワガタムシ類を、７月から８月までの期間、本館玄関前でタッチコーナーとして展示

（3）写真展示など

・４月から８月までの期間、１階レクチャーホールにて県内に生息する野生鳥獣の剥製とともに幼児･児童向けの鳥獣に関するクイズパネルを展示する「ふくいの動物はくせいクイズ」を開催した。
・８月から12月までの期間、県内の写真愛好家や職員が県内で撮影した自然の写真を展示する「感動の一枚！ふくいの自然写真展」を、本館２階森の学習室で実施した。
・年間を通し、１階玄関ホールに自然観察の森いきものマップを掲示して、自然観察の森で見られる季節の生きもの位置や見頃に関する情報を随時掲示した。
・年間を通して来館者から提供された生物情報を写真やコメントとあわせて掲示した。
・年間を通し、「自然保護センターで保護飼養された動物たち」の写真展示を、本館１階で行った。
・季節にあわせて「自然観察の森で見られる花や果実」、「冬芽」の写真展示を、本館１階で行った
・季節ごとの天体写真（M51子持ち銀河、M104ソンブレロ銀河等）、ミラクル双眼鏡の展示やプラネタリウム番組ポスターの掲示を、本館２階で行った。
・冬期間の１～２月に冬の野鳥レストランを本館２階（森の学習室）に開店し、室内で「エサ台や自然観察の森に来る野生鳥獣」、「エサ台にくる野鳥たち」の写真展示を行った。また、野鳥写真撮影用に、屋外に撮影ボックス（２人収容）を設置した。
・彗星の関心を深めるため、これまで撮影した彗星の写真を展示した。

（4）入館者数

	平成28年度人数（人）	累計人数（人）
本　館	25,530	574,373
観察棟	12,591	385,746
計	38,121	960,119

ただし、観察棟入館者数は、天体観望会の参加人数を含む。

2　指導普及事業

○自然保護の指導普及のために普及誌の発行、自然観察会、傷病鳥獣の救護、自然観察の森ガイド、天体観望会などを行った。自然観察会や天体観望会等の告知や季節の自然情報について、ホームページやメールマガジンを通じて情報発信を行った。里地里山保全のための作業や調査を各地で実施した。自然保護活動の普及・啓発のために、生き物百葉箱事業に登録した各団体への指導などを行った。

（1）自然観察会などの企画開催

自然教育や自然保護の普及啓発のために、以下のとおり自然観察会等を企画、開催した。

◆自然観察ウォーク

テ　ー　マ	実施月日	場　　所	参加人数(人)
春の今庄・燧ヶ城址の自然	5月28日（土）	南越前町今庄	38
今庄北陸道宿場町の本陣跡を歩き歴史・町並みに関しての説明を受け、新羅神社にてタラヨウ名札づくり体験を行った。低山ブナ林を通り燧ヶ城址の歴史説明を受けた。			
棚田と鷹巣城址の自然	6月11日（土）	福井市高須町	45
高須山の良さを知ってほしいとの地区民の協力を得たウォークとなった。高須山山頂から坂井平野や棚田の展望が開けました。			
六呂師高原ぐるっと１万歩	6月25日（土）	大野市　六呂師高原	28
天気予報は雨で当日の実施決定は悩んだが、実施できてよかった。なお、キツネとの出会いがあった。			
杉津の旧北陸線跡をたどる	9月24日（土）	敦賀市　旧杉津駅周辺	34
旧北陸線跡の県道沿いを歩きながら植物の解説を行うとともに煉瓦トンネル群の説明をおこなった。横浜海岸に移動後、漂砂による陸けい島の成立ちを説明した。			
深坂古道　紫式部が歩いた道	10月29日（土）	敦賀市深坂	24
新疋田駅から深坂峠周辺をゆっくりとトレッキングし、歴史を感じながら深まった秋の自然を体感した。			
生きもの冬ものがたり 「スノーシューで森の探検！」	2月11日（土）	自然保護センター	28
当日、奥越を除く全県で大雪警報が発令され、雪が降り続く中での開催となった。前日から降り積った多量の新雪のため先頭グループは体力的に大変だった。午後は雪洞を作ったりして雪遊びに夢中となった。			
池ヶ原湿原ガイド ・ミズチドリの観察とミニよしず作り ・コバギボウシのお花畑の観察とミニよしず作り	 7月3日（日） 8月7日（日）	 自然保護センター 勝山市平泉寺町池ヶ原	 8 18
7月23日の湿原観察会は雨で中止になったので、ミニよしず作りを自然保護センターで実施した。 8月7日は2班に分けて、池ヶ原湿原の自然観察と湿原の駐車場においてミニよしず作りを実施した。			

◆夏休み特別企画

テ　ー　マ	実施月日	場　　所	参加人数(人)
作ってみよう植物標本	7月23日（土）	自然保護センター	28
講師１人に対して２家族の班構成でスムーズに標本作製を行えた。作業を始めると段々と熱心に作る姿が良くなり、標本の出来も良かった。			
作ってみよう昆虫標本	8月6日（土）	自然保護センター	31
暑い中、トンボやチョウをはじめ、多くの昆虫を採取することができた。見本の標本もあったので、大変参考になった。参加者も熱心に取り組んでいた。			

◆自然保護セミナー

テ　ー　マ	実施月日	場　　所	参加人数(人)
コケを見分けよう	10月15日（土）	勝山市平泉寺町	31
センターとしては、はじめてのコケを対象とした観察会で、外部講師として熊澤辰徳氏を招き、講義、観察実習、コケ瓶つくり、白山神社でのコケ観察を行った。平泉寺は全国的にも貴重なコケ生育地で、緑の塊にしか見えなかったコケの多様性に気づくことができた。			

◆天文教室

テ　ー　マ	実施月日	場　　所	参加人数(人)
天体望遠鏡を作ってみよう！	7月22日（金）	自然保護センター 本館・第１駐車場	47
申込み開始当初から人気があり、すぐに定員が埋まった。曇りがちな天気で望遠鏡作成後の天体観望の可否が心配されたが、雲が晴れたため導入の練習をすることができた。参加者持ち込みの三脚が、強度不足のものが多く、望遠鏡の操作に支障が出ていたため、次年度はできるだけ大きな三脚を持参するよう案内したい。			
手作り星座早見盤で星座をさがそう！	7月29日（金）	自然保護センター 本館・観察棟	32
曇天だったため、実際の星空で星座早見盤を使う練習はできなかったが、プラネタリウムでの練習を行い、参加者の満足度が高かった。年齢によって作成の進度が大きく異なるため、何らかの工夫が必要であると感じた。			
天の川の撮影に挑戦！（固定撮影）	8月5日（金）	自然保護センター 観察棟	8
天気予報では予定日・予備日ともに天気が悪かったため、その旨を参加者に連絡し予定日に実施した。そのため７名のキャンセルがあった。前半の講義では、資料が大変わかりやすく好評だった。後半の撮影では徐々に天気が良くなり、天の川の撮影を体験していただけた。			
ペルセウス座流星群をみよう	8月12日（金）	自然保護センター 本館・第１駐車場	122
毎年人気で、定員を超えてからの申込みが多い。今年は当たり年との報道があり、問い合わせや参加者以外の訪問者が多かった。前半は曇りがちで流星の観察数が少なかったが、後半は晴れ間が増え、多くの流星を観察できた。明るい火球が現れた時には参加者から歓声が上がった。今年度からは観察した流星数をワークシートに記録し集計をとるようにした。また、参加者にあらかじめグループ番号を割り振り、観察場所や担当の天文リーダーを指定したところ、混乱なく運営できた。			
親子でじっくり天体観望	10月9日（日）	自然保護センター 観察棟	21
雲一つない晴天で絶好の観望日和であった。土星・火星・月・M13・M31など見ごたえのある天体を中心に観望を行った。人数限定だったため、参加したお子さんは何回も同じ天体を覗くことができ、じっくりと観望していただくことができた。観望会後の野外星座観察も好評だった。			

天体撮影に挑戦！（直焦点撮影）	11月２日（水）	自然保護センター 観察棟	8
日中雲一つない晴天であったが、開始直前になり空を雲が覆った。直焦点撮影の講義後も雲が多かったため、急きょ講師が撮影した天体写真の上映会を行い、天候の回復を待った。１時間程度で雲が晴れたため、天体撮影を開始。主要な星雲や星団などの撮影を体験していただけてよかった。NHKの取材があり、後日特集としてニュースで紹介された。			

（２）普及誌の発行

自然保護の普及啓発誌である『ナチュラリスト』を年間３号、発行した。

発行年月日	巻号	通算	特集内容
平成28年10月25日	第27巻１号	78号	改訂版　福井県の絶滅のおそれのある野生生物2016
平成29年１月17日	第27巻２号	79号	ブルーフラッグ　若狭和田海岸
平成29年３月14日	第27巻３号	80号	ふくいSATOYAMA学級 2017行事案内

（３）インターネットによる自然情報の発信

①ホームページによる情報発信

更新：年123回、年間アクセス件数：53,976件（前年件数29,479件，前年比83.1%増）

②フェイスブックページによる情報発信

更新：年40回、年間アクセス件数：29,966件

③メールマガジン「みみずく通信」による情報発信

・購読者の増加を図るため、携帯電話用のメールマガジンをPC版と併せて配信

・ＰＣ版「みみずく通信」　配信回数：年間66回、累計226号（2006年１月より)
　　配信人数：619人（前年数463人，前年比33.6％増）

・携帯版「みみずく通信」　配信回数：年間66回、累計164号（2010年11月より)
　　配信人数：145人（前年数74人，前年比95.9％増）

（４）自然愛護

傷病鳥獣の救護は、社団法人福井県獣医師会への救護委託および傷病鳥獣保護飼養ボランティア制度の活用によって実施した。平成28年度の傷病鳥獣の救護、治療件数は全体で318件、345個体であった。このうち、自然保護センターが収容した傷病鳥獣は87件106個体であった。その内訳は鳥類79件95羽(89.6%)、哺乳類８件11頭(10.4%)であった。鳥類ではツバメ22羽(23.1％)、スズメ12羽(12.5％)、ムクドリ８羽(8.4％)、同じくセグロセキレイ８羽(8.4％) が保護された。哺乳類ではタヌキが９頭(81.8％)、キツネが１頭(9.1％)、同じくカモシカが１頭(9.1％)保護された。

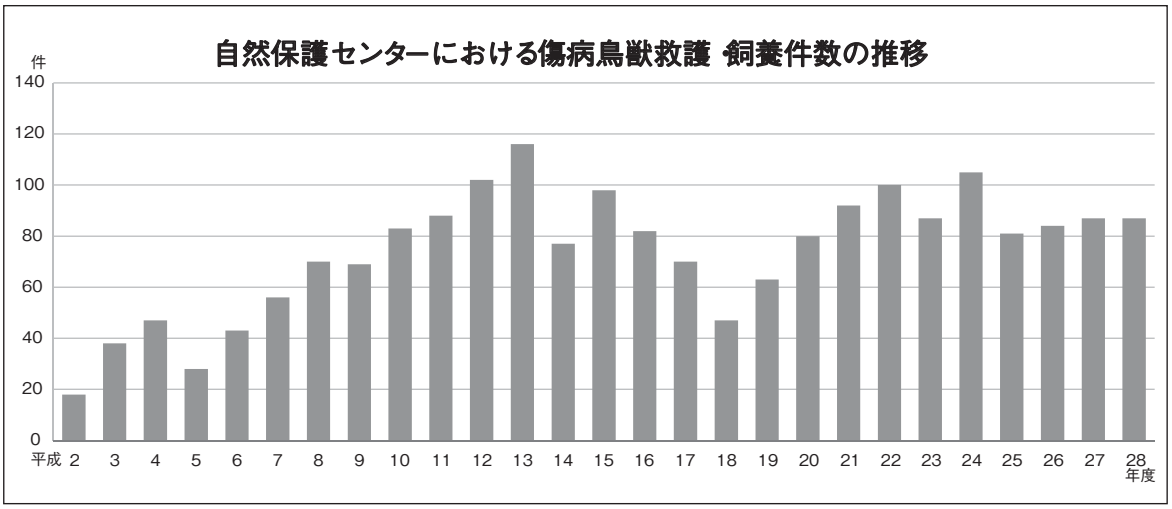
また、動物病院に持ち込まれた傷病鳥獣は231件、239個体であった。その内訳は鳥類209件216羽(90.4%)、哺乳類22件23頭(9.6%)であった。鳥類では、ツバメ35羽(16.2 %)、スズメ24羽(11.2%)ドバト22羽(10.2%)、の順で多かった。哺乳類では、タヌキ10頭(43.5%)、ニホンノウサギ４頭(17.4%)、イタチ３頭(13.0%)が保護された。

自然保護センターの救護個体の放野率（放野個体数／放野個体数＋死亡・安楽殺個体数）は、70.5％であった。傷病鳥獣保護飼養ボランティアへの飼養委託は、３件４個体であった。

① 傷病鳥獣の保護飼養数（自然保護センター取扱い）過去10年間のみ詳細を掲載（件・個体数）

分類＼平成年度		2～18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	累計
鳥　類	件　数	948	51	67	79	89	74	96	75	75	81	79	1,714
	個体数	1,405	70	105	111	128	104	121	116	96	127	95	2,478
哺乳類	件　数	184	12	13	13	11	13	9	6	9	6	8	284
	個体数	203	13	15	16	12	29	9	7	9	7	11	331
計	件　数	1,132	63	80	92	100	87	105	81	84	87	87	1,998
	個体数	1,608	83	120	127	140	133	130	123	105	134	106	2,809

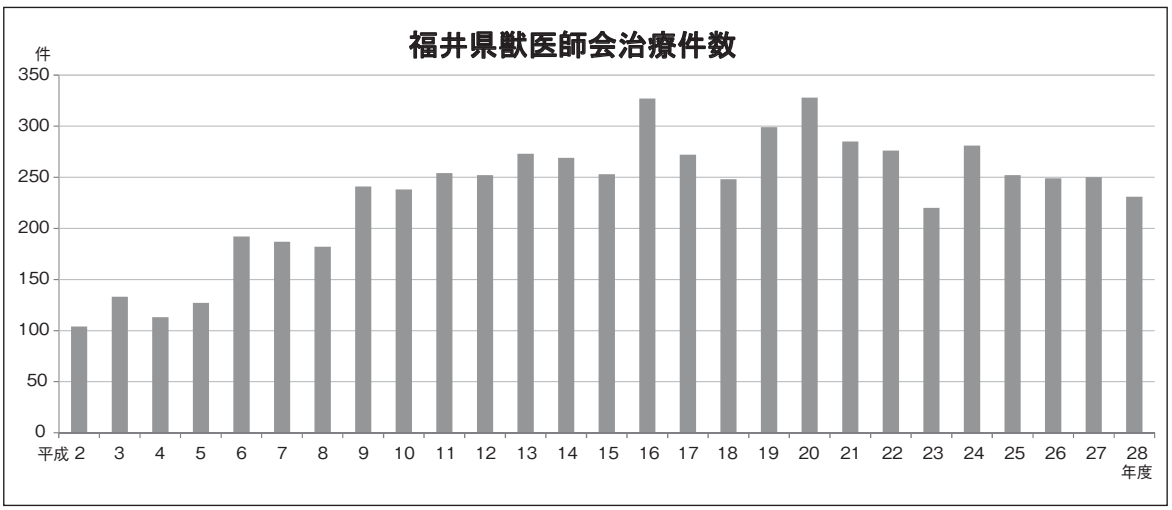
※　福井県獣医師会による治療後、自然保護センターが扱った個体数も含む。



② 傷病鳥獣の治療数（福井県獣医師会取り扱い）過去10年間のみ詳細を掲載　（件・個体数）

分類＼平成年度		2～18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	累計
鳥　類	件　数	3,351	260	289	256	260	201	260	228	227	232	209	5,773
	個体数	3,420	260	300	256	267	208	270	241	234	240	216	5,912
哺乳類	件　数	314	39	39	29	16	19	21	24	22	18	22	563
	個体数	323	40	39	35	16	19	21	24	22	18	23	580
計	件　数	3,665	299	328	285	276	220	281	252	249	250	231	6,336
	個体数	3,743	300	339	291	283	227	291	265	256	258	239	6,492

※　自然保護センターから治療のために委嘱獣医師に搬送した個体数も含む。



③　救護した鳥獣種とその結果　(1/2)　　(個体数)

鳥獣名	自然保護センター取扱い							福井県獣医師会取扱い								総計（のべ）
	放野	死亡	安楽死	移管（自然保護センター）	飼養継続中	その他	合計	放野	死亡	安楽死	移管（自然保護センター）	移管（ボランティア）	飼養継続中	その他	合計	
鳥類																
ハジロカイツブリ								1							1	1
カンムリカイツブリ								3							3	3
オオミズナギドリ									1						1	1
ゴイサギ	2						2	1		1	1				3	5
チュウサギ	1						1			1					1	2
コサギ									1						1	1
アオサギ	1						1	2		1					3	4
マガモ										2					2	2
カルガモ									2	1					3	3
オナガガモ												1			1	1
キンクロハジロ	1						1	1			1				2	3
トビ	2						2	7	1	1	1				10	12
チョウゲンボウ	2						2	1			1				2	4
キジ									2	1					3	3
オオバン								1							1	1
ケリ		1					1			1	1				2	3
ヤマシギ									1						1	1
ユリカモメ								1							1	1
カモメ								1		1		1			3	3
キジバト	5	2					7	3	3	2	2	1			11	18
ツツドリ								1	1						2	2
アオバズク	1						1				1				1	2
フクロウ	1	1			1		3	2			1				3	6
アカショウビン								1							1	1
カワセミ									1	1					2	2
アカゲラ	1						1									1
ツバメ	19	3					22	9	18	1	7				35	57
イワツバメ									2						2	2
ハクセキレイ								1	1						2	2
セグロセキレイ	2	6					8		1		1				2	10
サンショウクイ	1						1									1
ヒヨドリ	1						1		3		1				4	5
モズ								1							1	1
ジョウビタキ		1					1	1			1				2	3
イソヒヨドリ								1							1	1
トラツグミ	1						1									1
シロハラ	2						2				1	1			2	4
マミチャジナイ	1						1				1				1	2
ツグミ	1						1	1	1		1				3	4
ヤブサメ		1					1									1
ウグイス	1						1	1	2						3	4

③　救護した鳥獣種とその結果　(2/2)　　(個体数)

鳥獣名	自然保護センター取扱い							福井県獣医師会取扱い								総計（のべ）
	放野	死亡	安楽死	移管（自然保護センター）	飼養継続中	その他	合計	放野	死亡	安楽死	移管（自然保護センター）	移管（ボランティア）	飼養継続中	その他	合計	
オオヨシキリ								1							1	1
コガラ								1							1	1
シジュウカラ									2						2	2
アトリ								1							1	1
カワラヒワ		1					1		4						4	5
イカル								1							1	1
スズメ	7	5					12	3	16		4	1			24	36
ムクドリ	2	6					8	3	6		5	1			15	23
オナガ		1					1									1
ハシボソガラス	4						4	1	1		3				3	7
ハシブトガラス										1	1				2	2
ドバト	5	1					6	12	3	3	4				22	28
カラス類											1				1	1
鳥類（種不明）		1					1	4	9	4					17	18
鳥類合計	64	30			1		95	68	82	22	38	6			216	311
哺乳類																
アブラコウモリ									1		1				2	2
ニホンノウサギ								2		1		1			4	4
ムササビ								1							1	1
タヌキ	8	1					9	2	1	2	5				10	19
ホンドキツネ	1						1		1						1	2
ニホンイタチ								1	2						3	3
ニホンカモシカ	1						1	1							1	2
コウモリ類									1						1	1
哺乳類合計	10	1					11	7	6	3	6	1			23	34
総　　計	74	31			1		106	75	88	25	44	7			239	345

④　傷病鳥獣保護飼養個体の委託および譲渡　　(件・個体数)

	年度	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度	
		委託	譲渡	委託	譲渡	委託	譲渡	委託	譲渡	委託	譲渡
鳥類	件数	4	0	3	0	7	0	8	0	4	0
	個体数	4	0	3	0	7	0	8	0	5	0
哺乳類	件数	2	0	2	0	0	0	0	0	2	0
	個体数	2	0	3	0	0	0	0	0	2	0
計	件数	6	0	5	0	7	0	8	0	6	0
	個体数	6	0	6	0	7	0	8	0	7	0

※委託は傷病鳥獣保護飼養ボランティアへの飼育委託を示す。

＜飼養個体を活用した傷病鳥獣救護事業の普及啓発の取組み＞

目　　的　：　フクロウの飼養を通じ、保護した猛禽類の野生復帰に必要な狩猟訓練のノウハウを鷹匠の手法から習得する。また、放鳥までの間に県民がフクロウとふれあう機会を設け、傷病鳥獣救護事業についての普及啓発を行う。

概　　要　：　フクロウは巣立ちの際に親鳥から狩猟の技術を習得するため、幼鳥を野生復帰させるためには、狩猟の訓練を実施する必要がある。そこで、自然保護センターでは鷹匠（株式会社鷹丸）から指導を受けながら、担当職員が訓練技法の習得を試みた。来年度以降、放鳥までの間に来館者がフクロウとふれあうことのできるイベントを開催し、傷病鳥獣救護事業についての普及啓発を行う予定である。

フクロウの飼養状況

平成28年６月９日	幼鳥（巣立ち雛）２羽を受け入れ ※既に保護した方により約20日間飼養されており、訓練せずに放鳥しても生き抜ける可能性が低いため、短期飼養での放鳥を断念
平成28年６月～29年２月	鷹部屋に改修した飼育室で飼養を開始。人間からの給餌に慣れさせるため、２羽を革紐で止まり台に繋ぎ、ウズラの切り身を差し餌で給餌。２月には職員の腕上で完食するまでに人に慣れた。
平成29年３月16日	１羽が死亡（原因不明）
平成29年３月～	飼育室外での給餌を行うため、毎日約１時間、飼育室で担当職員が一緒に過ごし、廊下に出て散歩を行う。

（５）自然に関する相談

県民や行政などからの自然に関する相談や専門的な質問に回答した。

平成28年度の分野別、内容別の相談件数

分野別	件数
哺乳類	42
鳥類	113
その他脊椎動物	4
無脊椎動物	1
植物	3
地形・地質	0
天体・天文	0
その他	1
計	164

内容別	件数
傷病鳥獣	90
自然一般	67
自然学習	1
マスコミからの問い合わせ	3
行政からの問い合わせ	8
その他	15
計	164

（６）館内・自然観察の森ガイド

・「四季の自然観察シリーズ」として、４月～10月の日曜日、祝日に一般来館者を対象に１日２回、自然保護センター館内および自然観察の森のガイドを行った。（実施：38回、参加者：623人）
・「冬の野鳥レストラン」として、１月～２月の土・日・祝日に野鳥観察ガイドを行った。（実施：10回、参加者1006人）
・事前申し込みによる団体を対象に、センター周辺で「館内・自然観察の森ガイド」を実施した。（34団体、1954人）

平成28年度館内・観察の森等解説ガイド実績（一般）

	四季の自然観察シリーズ								冬の野鳥レストラン		
月	4	5	6	7	8	9	10	計	1	2	計
回　数（回）	3	8	4	6	5	6	6	38	5	5	10
参加者（人）	17	211	81	115	63	67	69	623	486	520	1006

平成28年度自然観察の森解説ガイド（四季の自然観察）一覧

実施日	曜日	テーマ	講　師
4/17	日	春の妖精はどこ！	櫻井　知栄子
4/24	日	南の国からようこそ！キビタキ・オオルリさん	酒井　敬治
4/29	祝	花の写真をきれいに撮ってみよう	牧野　晃治
5/1	日	緑の中を歩こう。「キョロキョロ、クンクン、ワクワク」	斎藤　寿子
5/3	祝	木の葉で写し絵を作ってみよう	牧野　晃治
5/4	祝	いろいろなトンボをみつけよう	矢村　健一
5/5	祝	春の花に集まるちいさな生きものと出合いましょ	大石橋　節子
5/8	日	春の妖精を見つけよう	久米田　賢治
5/15	日	花の咲き方いろいろ	田渕　千鶴子
5/22	日	湿地にはどんな花が咲くのかな	永上　新子
5/29	日	コシアブラで遊ぼう	山田　儀一
6/5	日	池に飛ぶ昆虫を探そう	山岸　登美子
6/12	日	高原の花と鳥と風でリフレッシュ	高谷　三恵子
6/19	日	素敵な色と香りのササユリを楽しむ	組頭　五十夫
6/26	日	馬取池の生き物と環境について探ってみよう	井草　貴男
7/3	日	モリアオガエルの卵・オタマジャクシを見に行こう	朝日　正之
7/10	日	夏の高原の生きものたち	井部　正興
7/17	日	カブトムシ・クワガタ虫の不思議	伊藤　勝幸
7/18	祝	いろいろなセミを見つけよう	矢村　健一
7/24	日	真夏の虫たちの不思議	太田　朗夫
7/31	日	夏の雑木林を探索しよう！	多田　雅充
8/7	日	夏の雑木林を探索しよう！	多田　雅充
8/11	祝	夏のトンボ・チョウをみつけよう	伊藤　勝幸
8/14	日	葉っぱで遊ぼう	山田　儀一
8/21	日	夏の花と、花に集まる昆虫をみつけよう	櫻井　知栄子
8/28	日	小さい秋を見つけた♪	斎藤　寿子
9/4	日	いろいろな「ひっつき虫」を探してみよう	田渕　千鶴子
9/11	日	木の実と種の不思議	櫻井　知栄子
9/18	日	秋の七草ご存知ですか？	山岸　登美子
9/19	祝	秋の七草を見つけよう	永上　新子
9/22	祝	秋の森で木の実さがし！！	大石橋　節子
9/25	日	秋の植物の花と実を探してみよう	矢尾　政士
10/2	日	落ち葉の下の生き物を探してみよう	山岸　登美子
10/9	日	秋の色鑑賞会	伊藤　尚子
10/10	祝	たねの「運ばれ方」をしらべよう	小林　則夫
10/16	日	「ノビタキ」を探そう	酒井　敬治
10/23	日	春咲いた花はどんな実をつけたかな？	源野　みね子
10/30	日	森の冬支度	石田　善之

（7）重要里地里山保全地区、生き物共生ホットエリア(重点活動地域)への支援事業

県は里地里山の絶滅危惧種が集中して分布している地域として、平成16年度に「福井県重要里地里山」30箇所を指定した。これらの地域において生物多様性の保全と活用を図るため、地域住民や県、市町、専門家等が連携して各地域の里地里山を計画的に保全する活動を支援してきた。

特に希少野生生物が分布する「白山・坂口」、「三方五湖周辺」、「中池見・池河内湿原」、「東尋坊・北潟湖」、「平泉寺・奥越高原」の県内５地域を「生き物共生ホットエリア(重点活動地域)」として選定し、重点的に自然再生活動を推進している。

平成28年度には、あわら市北潟地域（北潟地区)、坂井市陣ヶ岡丘陵地域（安島地区)、勝山市北谷町（小原地区)、六呂師高原の４地域において団体等の活動支援を実施した。

ホットエリア	地　域　名	活動団体	主な事業内容	保全対象種
東尋坊・ 北潟湖地域	あわら市 北潟湖周辺	北潟湖の自然再生に関する協議会	①ため池の希少水生昆虫の保全と再生 ・水生昆虫の生息状況調査 ・特定外来生物（ウシガエル）の駆除 ②湿地性鳥類の生息状況調査 ・カスミ網を使った標識調査 ・センサーカメラによる潜行性鳥類の生息状況調査	オグマサナエ、トラフトンボ、アオヤンマ、ネアカヨシヤンマ、チョウトンボ、ミヤケミズムシ、マルケシゲンゴロウ、ノジコ、ヒクイナ等
	坂井市 陣ヶ岡丘陵 地域周辺	陣ヶ岡丘陵地域生物多様性保全協議会	・環境教育の実施（雄島小学校） ・監視カメラのメンテナンス ・侵略的な外来生物（アメリカザリガニ）の駆除	ゲンゴロウ類、ネアカヨシヤンマ、オオコオイムシ等
平泉寺・ 奥越高原地域	勝山市 北谷町	小原ECOプロジェクト	・ミチノクフクジュソウの観察会と保全活動（村岡小学校）	ミチノクフクジュソウ
	六呂師 高原周辺	池ヶ原湿原 連絡協議会	①池ヶ原湿原連絡協議会の運営 ・保全・活用策の協議と合意形成 ・湿原植物を保全するヨシ刈り活動 ②利活用の推進 ・環境教育の実施（平泉寺小学校） ・自然観察ガイド　２回 ③湿原植物を保全する植生管理 ・ヨシの刈り取り ・ハンノキの伐採 ・特定外来生物（オオハンゴンソウ）の駆除 ・水位調整土のうの設置	ミズチドリ、トキソウ、ノカンゾウ、カキラン等
	大野市 阿難祖	大野市	・保全活動（草刈り、落葉葉枝の除去）	フクジュソウ

①「福井県重要里地里山」における講師派遣

里地里山保全活用支援事業の実施地区をはじめ、それ以外の地区における里地里山保全の市民活動を支援するため、地元団体や学校が主催する環境教育および保全活動に対し、下記のとおり講師を派遣した。計11回（３地域376人参加）実施した。

重要里地里山 地　域　名	演　　題	場　　所	実施年月日	主　催　者	参加 人員
勝山市北谷町	ミチノクフクジュソウ保全活動	勝山市 小原地区	平成28年４月11日 平成28年７月７日 平成28年10月21日	小原ECOプロジェクト	31 31 44
勝山市平泉寺町	池ヶ原湿原自然観察会	勝山市 池ヶ原地区	平成28年４月16日 平成28年５月６日 平成28年７月１日 平成28年７月19日 平成28年10月26日 平成28年11月４日	勝山市立平泉寺小学校	18 24 18 52 18 55
坂井市陣ヶ岡丘陵地域	坂井市陣ヶ岡丘陵地自然観察会	えろもんのふけ、三国町海浜自然公園	平成28年６月27日 平成28年10月３日	陣ヶ岡丘陵地域生物多様性保全協議会 雄島小学校	41 44
あわら北潟湖周辺	北潟フォーラム （ポスター展示）	あわら青年の家	平成28年９月25日	北潟湖の自然再生に関する協議会	220
美浜町新庄周辺	ヒラサナエとアベサンショウウオの保全対策協議 ヒラサナエの保全対策	美浜町新庄	平成28年８月８日 平成28年12月８日	美浜町住民環境課	12 8

②自然環境保全地域等管理事業（六呂師高原湿原植生管理支援事業）

池ヶ原・妻平湿原では、平成21年度から24年度の緊急雇用創出事業により湿原の植生管理を実施し、希少かつ独自の植生やトンボ類等の多様性を再生させた。その後もこれらの景観や生物多様性を今後も維持していくため、再び成長するヨシやハンノキ等の植生管理を継続して実施している。

ア）妻平湿原

目　的：　妻平湿原本来の植生を保全するため、ヨシおよびハンノキを管理し、光環境を改善するとともに水深を確保する。

内　容：　妻平湿原はミツガシワの県内最大級の生育地であり、他にも多様な湿性植物が生育し、かつて水田であった部分（約1,800㎡）と、以前から湿原であった部分から成り立っている。かつて水田であった部分は、上流から土砂や栄養分の流れ込みが増加し、ヨシ、マコモ等の高茎草本が繁茂しやすい状態になっている。このため、トンボ類の生息にとって好適な開放水面の面積が減少し、以前に比べオオルリボシヤンマ等が観察できなくなってきている。

そこで、妻平湿原の南西側では、オオルリボシヤンマやギンヤンマなどの大型のヤンマ類の産卵環境を維持するため、平成27(2015)年から毎年６月に、職員作業によってヨシやマコモ類の除去を実施している。

一方、六呂師高原のハッチョウトンボは、すでに1978年の調査で確認されず、絶滅したと推定されていた(第２回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(昆虫類),1979)。ところが2010年代になり、池ヶ原湿原と自然観察の森のトンボ池や妻平湿原で散発的に記録されるようになり、復活の期待が持てるようになった。そこで、これまでの記録地の中から最もハッチョウトンボの生息に適していると推定される妻平湿原の南東側において、平成27(2015)年度から、ハッチョウトンボの定着を目標とする植生管理を行ってきた。

植生管理は、湿地の水生植物群落の背丈を30㎝程度に抑えるために、毎年６月に職員作業で、８月にはインターシップ研修において、ヨシの抜き取りやマコモの刈り取りを実施した。その結果、平成27年と28年の２ヶ年とも、オスが1頭ずつ、複数回確認された。

このようにハッチョウトンボの生息は、毎年期待が持てるようになったが、オスが１頭記録されているだけでメスの記録がなく、当該地において本種が再生産しているとはいえるような段階には達していない。よって今後も、さらに背丈を低くする植生管理を継続していく必要がある。

イ）池ヶ原湿原

目　的：　湿原本来の植生を保全するため、植生保全作業の実施とあわせて、外来植物の除去および園地の維持管理を行う。

内　容：　池ヶ原湿原は、ミズチドリやオオミズゴケなど多様な湿性植物が生育する嶺北最大規模の湿原である。しかし、平成20年度以前はヨシ・低木・ハンノキが繁茂し、丈の低い湿性植物の生育を阻害していた。また、湿原内に特定外来生物オオハンゴンソウが侵入し、かつ管理頻度の低下に伴って園地のヤブ化が進んでいたが、平成21～24年度に緊急雇用創出事業による植生管理（ハンノキ、低木の除去及びヨシの刈り取り）、地下水位の上昇・水質の維持、オオハンゴンソウの除去等の作業の実施により湿原植生が回復した。平成25年度、「池ヶ原湿原連絡協議会」を設立し、自然保護センターを事務局とする、県、市、地域住民・企業、専門家等の多様な主体の連携による湿原保全の体制を作り保全活動を実施している。

池ヶ原湿原連絡協議会構成員

区　　分	氏　　名
専門家	小林　則夫（会長）勝山市わくわく学習体験推進隊 北川　博正
地域住民	松井　誠一（副会長）池ヶ原湿原を守る会
企業	勝山ロータリークラブ マイランＥＰＤ合同会社勝山事業所 ケイテーテクシーノ（株） 山田兄弟製紙（株）
教育機関	勝山市立平泉寺小学校
自然関係団体	ノーム自然環境教育事務所 福井県自然観察指導員の会
行政機関	勝山市 福井県奥越高原牧場 福井県立奥越高原青少年自然の家 福井県安全環境部自然環境課 福井県自然保護センター

平成28年度は、池ヶ原湿原連絡協議会の活動として、連絡協議会の開催、ヨシ刈り活動イベントの開催や平泉寺小学校の環境教育の支援を行った。また、湿原内の植生保全のため、ヨシやススキの刈り取り、ハンノキ等低木の抜根、ハンノキ高木の伐採、オオハンゴンソウの除去を委託により実施した。

池ヶ原湿原連絡協議会の活動状況

実　施　日	場　　所	イベント名	概　　要	参加人員
平成28年５月27日	奥越高原牧場	連絡協議会 （第１回目）	H28年度活動計画について 湿原現地確認の実施	20
平成28年６月26日	池ヶ原湿原	ヨシ刈り活動 （春）	ヨシ刈り、ハンノキの引き抜き	53
平成28年10月23日	池ヶ原湿原	ヨシ刈り活動 （秋）	ヨシ刈り、ハンノキの引き抜き、外来植物の除去	40
平成29年２月10日	勝山市教育会館	連絡協議会 （第２回目）	H28年度事業実施結果報告 H29年度事業計画について	22

植生保全のための委託作業状況

実　施　日	作　　業　　内　　容	作業人員
平成28年６月29日、30日、 ７月１日、11月22日	池ヶ原湿原、妻平湿原高茎草本刈り取り	11
平成28年６月29日～ ７月１日，12月８日	池ヶ原湿原ハンノキ伐採	6
平成28年12月13日	池ヶ原湿原ハンノキ切株の覆土	2
平成28年６月29日 平成28年７月19日	池ヶ原湿原オオハンゴンソウの除去	4
平成28年７月１日～２日	池ヶ原湿原水位調整土のうの再整備	6
平成28年７月19日～27日	池ヶ原湿原特定外来生物の除去	36
平成28年７月２日	妻平湿原園路草刈り	1
計		66

（8）外来魚防除対策事業

外来魚生息・繁殖による生態系への被害拡大防止のため、ため池（１ヶ所）において水抜き、駆除作業を実施した。

実施地区：あわら市細呂木（後谷ため池）

作業内容：平成28年11月１日（日）

８：45～13：30　外来魚の駆除作業　参加者24人

①捕獲方法の流れ

・あらかじめ水抜きをしていたが、前日の降雨により再び水がたまったことから、作業開始時は岸からタモ網で魚類を捕獲した。
・ため池内の水抜きをしつつ、まだ水が残っている間に刺し網の設置を目指した。
・潟スキーでため池内を移動し、湛水域全体に刺し網を仕掛けた。
・潟スキー乗船者１名が刺し網を仕掛け、岸からロープで潟スキーを引いて操縦した。
・ため池の底の泥が細かいために、潟スキーと乗船者が泥に沈み込み、刺し網の設置に手間取った。また、想定より水の抜けるスピードが速く、刺し網をほぼ仕掛け終えた段階で、既に水が抜けて無くなってしまっていた。
・その結果、泥の重さで刺し網を引くことが出来ず刺し網での捕獲を断念した。
・その後、設置した刺し網は回収した。
・ため池の水がほとんど無くなったため、ため池排水部でのたも網捕獲班と、池内の小さな流れに取り残された魚類をボートで捕獲する班の2班に分かれて作業を実施した。

②駆除結果

種　　名	捕獲数（匹）	種　　名	捕獲数（匹）
フナ類	494	スジエビ	1
タナゴ類（タイリクバラタナゴ）	20	オオタニシ	1
ライギョ	15	ウシガエル	0
コイ	12	アメリカザリガニ	0
ドンコ	2		
		計	545

③捕獲後の処置

北潟湖周辺のため池の多くではウシガエルが多産し、本来あった水生昆虫相が崩壊してしまっていることが多い。しかしながら後谷池は、現在も水生昆虫類の多様性が維持され、県域絶滅危惧Ⅰ類のミヤケミズムシやマルケシゲンゴロウ､アオヤンマやチョウトンボなどが多産している。その理由として、水生植物群落が発達していること、ライギョやコイなどの捕食性魚類によってウシガエルの増殖が抑え込まれていることなどが考えられる。

そこで、捕獲した魚類の取扱いを関係者と協議した結果、後谷池の改修工事終了後に、捕食性魚類のライギョとコイは再放流するということで合意した。一方、最も個体数が多かったフナについては、北潟湖由来であると推察されたので、漁業資源として北潟湖に流入している観音川に放流することとした。

また、捕獲された水生昆虫（アオヤンマ、タイコウチ、ミズカマキリ、オオコイムシなど）は、工事が終了するまでコンテナ内で保護することとした。

（9）特定外来生物ウチダザリガニ駆除活動

九頭竜湖に定着したウチダザリガニの生態系被害防止と生息状況把握を目的に、カゴ罠による捕獲・駆除を実施した。平成28年は７月13日～９月11日（60日間）に、箱ヶ瀬地区面谷橋下に７個のカゴ罠を設置し、682個体を捕獲した。

捕獲の詳細と駆除結果

設置期間（日数）	設置個数	回収回数	捕獲数（匹）
７月13日～９月11日（60日間）	７個	５回	682
〈開始日ごとの捕獲数〉 ７月16日（100匹），７月20日（137匹），８月11日（73匹），９月７日（128匹），９月11日（244匹）			

（10）生き物百葉箱事業

小学校などの子どもを含む団体が自主的に行う身近な自然環境の観察や調査を支援し、継続的な調査や生態系の保全・再生の必要性を学ぶことを目的とした事業で、継続的な自然観察をする団体の登録、登録団体への教材（生き物図鑑下敷き・ワークシート）の配布、専門家など（ゲストティーチャー）の派遣を行った。

・登録人数（団体数） 5,195人（169団体）

・ゲストティーチャーの派遣回数　33回（派遣人数　年間33人、受講者人数　年間1,309人）

（登録グループ別内訳）

グループ名	登録数	登録人数
学　　校	38	1,801
団　　体	57	2,561
放課後クラブ	3	106
公　民　館	13	437
子　供　会	1	31
一　　般	56	204
エンゼルランド	1	55
合　　計	169	5,195

（11）天体観望会など

①天体観望会

一般来館者を対象に、４月～12月、３月の土曜日の夜に「週末天体観望会」を実施した。（曇天・荒天時はプラネタリウム）また、「昼の天体観望会」は、日中の来館者を対象に、太陽や金星、１等星などの観望を行った。この他、事前申し込みによる団体を対象に天体観望会を実施した。

	実施回数（回）	参加者数（人）
一般対象　週末天体観望会	32	724
一般対象　昼の天体観望会	190	1,359
団体対象　天体観望会	70	3,483
計	292	5,566

②プラネタリウム・冬の星空ガイド

一般来館者および事前申し込みによる団体を対象に、プラネタリウムの投影を行った。一般を対象としたプラネタリウムは、４月～12月、３月の土曜日・日曜日・祝日に１日４回実施した。また、１～２月の土曜日・日曜日・祝日には「冬の星空ガイド」として、本館で天体シミュレーションソフトやパワーポイントを用いた星座解説や星座物語の上映を実施した。

	実施回数（回）	参加者数（人）
一般対象　プラネタリウム（土・日曜日・祝日）	269	2,118
（うち　冬の星空ガイド１～２月）	(45)	(259)
団体対象　プラネタリウム	103	3,594
（うち　冬の星空ガイド１～２月）	(4)	(56)
計	372	5,712
（うち　冬の星空ガイド１～２月）	(49)	(315)

③特別天体観望会

特異な天文現象や大型連休に合わせて、冬期を除いて年間９テーマ（のべ14日間）の特別天体観望会を計画・実施した。悪天候時はプラネタリウムの投影や天体ドームにおいて、望遠鏡の紹介や天文に関する解説などを実施した。

テ　ー　マ	実施月日	参加人数（人）
水星、月、木星をみよう	４月17日（日）	21
前日からの強風と雲で開催が心配されたが、当日の午後から天気が一転し、素晴らしい星空となった。観望の難しい水星や縞の美しい木星、月の表面の様子などが観望で来て参加者に満足していただけた。初開催の「見上げてゴロン、夜の星を」コーナーは、まだ気温が低く参加者は寒そうであったものの、美しい星空に満足度は高かった。		
星空観望ゴールデンウィーク －木星・春の銀河をみよう－	４月29日（金）　32 ４月30日（土）　49 ５月３日（火）　0 ５月４日（水）115	196
開催４日間の内、３日は雨であった。初日は晴天でテーマ通り木星と春の銀河を十分に観望していただけた。２日目は雨で観望はできなかった。天体の解説とプラネタリウムを実施した。３日目は暴風雨で来館者なし。４日目は雨天であったが、終盤に晴れ間があり残っていた来館者に天体観望していただけてよかった。		
火星・地球最接近！	５月31日（火）	67
全体的に曇りがちであったが、雲の隙間からテーマの火星、その他に木星、土星などを観望していただくことができた。本年の主要な天文ショーであるので、少しでも観望ができよかった。		
七夕の夜　－願いをこめて－	７月７日（木）	77
例年雨が多い七夕の観望会であるが、珍しく晴れてたくさんの来館者があった。終了頃には天の川が肉眼で確認できるほどの星空となった。野外での星空観察はあたたかくなり、ゆっくりと楽しんでいただけるようになった。夏の天体や天の川について、多くの方に解説を喜んでいただけた。		
惑星大観望会 －肉眼で見える５惑星全部みよう－	７月17日（日）	51
沢山の惑星を観望できる機会であったが、曇天によりまったく観望ができず残念だった。一方で天体解説やプラネタリウムは好評で多くの来館者に満足していただけた。県の広報誌以外でも新聞や学校配布のチラシを見て来館された方が多かった。		
お盆には星を…	８月13日（土）	479
前日がペルセウス座流星群の極大日であり、当日は日中からずっと晴天だったため、記録的な数の来館者があった。観察棟の内外が身動きが取れないほどの人で危険な状態であった。今後、これほどの来館が予想される場合には、スタッフの増員のみならず、一時的な人数制限も検討する必要がある。		

中秋の名月	9月15日（木）	一般15 団体51
日中から夜までずっと曇りで、名月の観望会としては残念な天気となった。雲の薄いところから、時折おぼろ月として見える程度で、望遠鏡で見ても表面の様子を明瞭に観察することはできなかった。野外観察や月の見立て調べのコーナーなど準備はしたものの、月が見えなかったため利用していただけなかった。		
シルバーウィークの夜 －月・土星・火星をみよう－	9月17日（土） 9月18日（日） 9月19日（月）	22
３日間を通して天気が悪く、１日も星が見えることはなかった。週間天気予報でもずっと天気が悪く、台風の接近もあり、来館者は昨年に比べずっと少なく、残念である。		
天王星・海王星・晩秋の星雲・星団をみよう	11月22日（火）	29
雨天により天体の観望ができず残念であった。それにも関わらず、29名と予想以上の参加者があった。天体の解説とプラネタリウムを実施して対応し、ほとんどの参加者に満足していただけたのでよかった。		
計９テーマ	のべ実施日数：14日	957（団体含1008）

3　研修養成事業

○自然保護に関心を持つ県民を養成するために、ナチュラリスト登録、リーダー養成講習会等の事業のほか、インターンシップをはじめとする各種研修生の受け入れを行った。

（1）ナチュラリスト養成

福井県ナチュラリスト事務局（自然保護センターと海浜自然センター内に設置）で、自然に関心のある人を「福井県ナチュラリスト」として登録した。登録者には、ナチュラリスト登録証と自然情報誌ナチュラリスト最新号を、登録時に配付した。希望者には郵送料と引き替えに、福井の自然情報誌「ナチュラリスト」（年３回発行）とカレンダー、年間行事予定を郵送した。また最近の登録者および最近までナチュラリスト郵送を希望していた登録者には、年間行事案内を年度初めに郵送した。

登録者数の増加とサービスの向上を図るため、以下の２つの取り組みを行った。

①オリジナル登録特典グッズの作成・配布

以下のオリジナル登録特典グッズを作製し、ナチュラリスト登録１名につき、いずれか一つを進呈した。また、既に登録済みのナチュラリストにも、来館やイベント参加の際に希望があれば進呈した。

・福井の生きもの缶バッジ（全25種）
・野鳥レストラン缶バッジ（全10種）
・天文クリアファイル（１名につき１つまでの進呈とした）
・自然保護関係印刷物のバックナンバー（１名につき１冊進呈とした）

②ナチュラリストとメルマガの同時登録の推進・メルマガ情報の充実

①の登録特典グッズの進呈をきっかけとして、積極的に登録の勧誘に努めた。メルマガを通じて、積極的にセンターのイベント情報、六呂師の自然情報（花、昆虫、野鳥など）、星空情報を発信した（年間66回配信、配信人員：ＰＣ版619人，携帯版145人）。

	平成28年度新規登録者数	累　計
福井県ナチュラリスト登録者	1,010人	11,202人
（自然保護センター分）	（1,004人）	（9,325人）
（海浜自然センター分）	（6人）	（1,877人）

（2）ナチュラリストリーダー養成

ナチュラリストを指導するリーダーの養成を目的に、講演会を天文分野で開催した。

テ　ー　マ	実施年月日	場　所	参加人数
天文講演会 小惑星探査機「はやぶさ」に学ぶ －未来を切り拓く力を－	平成28年６月12日	福井県立図書館 多目的ホール	115人
今回はJAXA職員、並木道義氏を講師として招き、小惑星探査機「はやぶさ」をテーマとした講演会を実施した。興味を持ちやすいテーマだったため、多数の参加者があり良かった。講師自らがはやぶさを回収に行った体験談が特に好評だった。			

平成28年度は１名のナチュラリストリーダー新規登録があり、累計の登録者数は110人となった。

（3）研修生の受け入れ

大野市尚徳中学校と開成中学校より職場体験学習として依頼のあった中学生３名を受け入れた。また、福井県インターンシップ推進協議会、福井県経営者協会の要請を受け大学生のインターンシップ研修として４名を受け入れた。

研修名	依頼元	人数	所属	研修期間
職場体験学習	尚徳中学校	1	２年生	７月26日
	開成中学校	2	２年生	７月28日
福井県インターンシップ	福井県インターンシップ推進協議会・経営者協会	1	福井大学	８月８日～８月12日
		1	福井大学	８月８日～８月14日
		2	福井工業大学 仁愛大学	８月16日～８月20日

4　資料収集事業

○各分野の標本資料や視聴覚資料、自然に関する文献等の収集や保管を行った。

（1）標本資料など

剥製等標本28点と昆虫標本８点を収集した。うち、哺乳類12点については、頭骨標本６点が含まれている。

標本資料数（件）

取得＼分類		哺乳類	鳥　類	魚・両生・爬虫類	昆虫類	無脊椎動　物	植　物菌　類	岩石・鉱物・古生物	天　文	その他
収　集	28年度	12	16	0	8	0	0	0	0	0
	累　計	75	342	93	2,444	47	1,623	42	0	2
購　入	28年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累　計	13	31	14	11	0	614	350	9	0
寄贈・寄託	28年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累　計	26	160	1	2,302	22	14,117	33	0	33
28年度計		12	16	0	8	0	0	0	0	0
累　計		114	533	108	4,757	69	16,354	425	9	35

（2）視聴覚資料

視聴覚資料数（件）

取得＼分類		脊椎動物		昆　虫		無脊椎動物		植　物		地形・地質		天　文		その他	
		写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像
収集	28年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	467	0	0	0
	累　計	1,837	13	1,702	4	25	0	3,537	0	1,725	4	855	2	514	42
購入	28年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累　計	0	67	0	29	0	6	0	18	1	34	12	15	8	31
寄贈	28年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	209	0	0	0
	累　計	118	24	547	4	0	1	13	6	47	25	211	86	1	113
28年度計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	676	0	0	0
累　計		1,955	104	2,249	37	25	7	3,550	24	1,773	63	1,078	103	523	186

（3）文献資料

文献資料数

取　得＼種　類		単行本（冊）	雑誌（冊）	報告書（冊）	その他（冊）
購　入	28年度	0	5	0	0
	累　計	1,312	28	0	0
交換・配付（その他）	28年度	0	65	44	108
	累　計	0	202	3,901	6,929
寄　贈	28年度	0	1	0	0
	累　計	505	1	405	778
28年度計		0	71	44	108
累　計		1,817	231	4,306	7,707

（4）天文写真資料

好天時や天文現象にあわせて、観察棟天体観測室や野外にて、デジタルカメラによる撮影を行った。撮影した映像はホームページや提供資料に活用し、NHKなどメディア等にも話題提供した。

5　調査研究事業

○福井県内の自然環境を把握し、自然保護の基礎資料とするために、各種調査研究を実施した。

（1）渡り鳥保全調査（鳥類繁殖状況調査）

趣　旨：　福井県内の鳥類の繁殖分布とその変化を明らかにするため、全国鳥類繁殖分布調査の共同実施団体として、鳥類の種類、個体数、繁殖の可能性について調査する。

概　要：　福井県内の24コースを、各調査コースごとに１～２人ずつの調査員で実施する。
調査は現地調査とし、調査マニュアルに従い５月中旬～６月下旬の午前５時～９時に１回調査する。

調査者：　日本野鳥の会福井県の会員

（2）ガンカモ科鳥類生息調査（鳥類生息調査事業）

趣　旨：　鳥類保護行政の基礎資料とすることを目的として、福井県内に渡来するガンカモ科鳥類の生息状況を把握する。

概　要：　この調査は、国（昭和44年度から林野庁、昭和48年度から環境庁、平成12年度から環境省）の依頼により、毎年１月15日前後に、全国一斉に行われているものである。福井県においては昭和52年度以降、県が日本野鳥の会福井県に委託して調査を実施している。調査は、坂井平野で平成29年１月７日、その他の調査地については平成29年１月９日に実施した。福井県におけるガン・カモ・ハクチョウ類の主要な渡来地となっている17か所の湖沼、河川、内湾、平野部において調査を行った。調査地の全域をカバーするように観察地点もしくはルートを設定し、調査地域内で観察されたガン・カモ・ハクチョウ類の種とその個体数を記録した。各調査地には３～15名の調査員を配置し、双眼鏡および望遠鏡により種を判定し、計数器により個体数を記録した。

結　果：　計17か所の調査地において、計20種26,694羽のガン・カモ類が記録され、ハクチョウ類は記録されなかった。昨年度と比較して種数は２種増加し、個体数は19羽増加した。今回の調査で、ガン類が２種1,187羽、カモ類が18種25,507羽記録された。昨年度と比較して個体数に大きな増減があった種は、ホシハジロ（788羽減）、キンクロハジロ（606羽増）、コガモ（566羽減）であった。優占度の高かった種は、マガモ（50.4%）、キンクロハジロ（9.7%）、コガモ（9.3%）、ホシハジロ（8.2%）などであった。逆に個体数の少なかった種は、クロガモ（１羽）、ウミアイサ（１羽）などであった。

成　果：　調査結果は日本全国の結果と統合して集計するため、環境省生物多様性センターに報告した。また、調査結果を下記の報告書にとりまとめ、関係機関等に配布した。
日本野鳥の会福井県(編)．2016．平成28年度ガンカモ科鳥類生息調査報告書．福井県自然保護センター，大野．

調査者：　日本野鳥の会福井県（委託）

（3）カワウ生息調査（鳥類生息調査事業）

趣　旨：　中部、近畿圏におけるカワウ広域保護管理指針策定の基礎資料とするため、福井県内におけるカワウの生息状況を把握する。

概　要：　近年、全国的に個体数が増加し、内水面漁業との間で軋轢が生じているカワウは、行動域が広く県境を越えて移動するため、その被害防止と保護の両立には広域的な保護管理が必要である。そこで、環境省主導のもと、中部近畿カワウ広域協議会が設立され、広域保護管理指針の策定を目指している。この協議会では、カワウの保護管理の基礎資料とするため、各府県が連携してカワウの生息状況を把握することとしており、本県においてもカワウの営巣地・ねぐら調査を年３回実施してきた。今年度も７月、12月、３月において、これまでに判明しているカワウの営巣地・ねぐら10地点で、日没前後の入巣・就塒個体数の計数を行った。また、12月には新規営巣地・ねぐらを発見することを目的として、主要な水系沿いでルートセンサスを実施した。さらに、西日本では、カワウの新たな営巣地やねぐらはサギ類の営巣地への侵入によって形成されることが多いため、主要なサギ類コロニー10地点についても、７月に営巣種と個体数を調査した。

結　果：　カワウの営巣確認数は、３月に２ヶ所で22個体の営巣が確認された。カワウの営巣地・ねぐら10地点における12月および３月の入巣・就塒個体数の合計は、それぞれ386羽および459

羽であった。

成　果：　広域的なカワウの生息状況把握に利用するため、調査結果を中部近畿カワウ広域協議会に報告した。

調査者：　日本野鳥の会福井県（委託）

（4）自然観察の森周辺環境調査

趣　旨：　自然保護センター周辺の自然環境を調査し、展示や来館者を対象とした自然環境教育の資料とする。

概　要：・自然観察の森をはじめ、六呂師高原に分布する動植物の写真を撮影し、ホームページでの公開、ウォーキングセンターでの展示などに活用した。

・７月以降、六呂師高原各所にセンサーカメラ５台を設置し、動物の生息状況調査と行動の撮影を試みた。結果、ニホンザル、ツキノワグマ、ホンドギツネ、タヌキ、アナグマ、テン、ハクビシン、ニホンカモシカ、ニホンジカ、イノシシ、ニホンノウサギ、ニホンリス、アカネズミが撮影された。

・馬取池においてモリアオガエルの産卵数調査を行い、約120個の卵塊を確認した。（26年度120個）

調査者：　松村俊幸、宮下欣也、加藤幸洋、國永知裕

（5）ブナ科樹木の豊凶調査（ツキノワグマ保護管理計画推進事業）

趣　旨：　クマ大量出没の予測を含むツキノワグマ保護管理の基礎資料とするため、ブナ科樹木の豊凶を把握する。

概　要：　クマ類の人里付近への出没件数には年次変動があり、ときに大量出没に至るが、その発生にはクマの秋期における主要な餌であるブナ科樹木の堅果類の豊凶が関与していると考えられている。そこで、クマ大量出没の発生を早期に予測することを目的として、８月中旬から９月上旬にかけて、県全域を対象としてブナ科樹木の堅果類の樹上における着果状況を目視で調査し、その豊凶を把握した。

結　果：　平成28年度における各樹種の県全体の作柄は、ブナは凶作、ミズナラは並作、コナラは不作であった。これまでの研究の結果、福井県内ではブナとミズナラの作柄が揃って著しく不良となった平成18年と22年に県全域でのクマの大量出没が確認されたことから、山地における餌資源の不足が秋期のクマの大量出没の引き金になったことが示唆されている。平成28年度はブナが不生り年にあたるものの、本県においては、より山地の優占度が高いミズナラの作柄は比較的良好であった。過去の作柄と比較すると、クマ大量出没年（平成18、22、26年）にはブナ、ミズナラともに著しい結実不良であったが、ミズナラに結実が見られる点でこれらの年よりも高標高域の作柄は良好であった。また、ブナが凶作であるもののクマ大量出没に至らなかった平成20年、24年と比べると、今年のミズナラの作柄はこれらの年と同程度以上の良好な水準であり、山地の餌資源量は多いと推察された。しかしながら、クマの出没には、クリなどの他の山地の餌資源の結実状況や、過去の繁殖状況や有害捕獲の強度に左右されるクマの個体群の状況など複数の要因が影響すると考えられる。また、嶺南西部や奥越の一部の地域などでは、他地域に比べミズナラの作柄が不良な地点が認められた。以上のことから、平成28年は県全域でのクマ大量出没の危険性は高くないと判断されるものの、地域レベルでは、散発的にクマが里山に下りてくる可能性があるため注意が必要である。

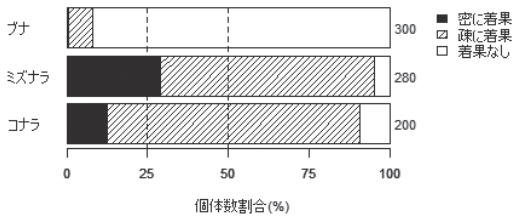


図　樹種ごとの着果区分別個体数割合．グラフ右の数字は調査個体数を示す。

成　果：　県は本調査結果にもとづき、平成28年９月14日に開催した「平成28年度ツキノワグマ出没対策連絡会」において、出没予測を発表した。平成28年度の福井県における秋期のツキノワグマ出没件数は23件であり、大量出没には至らなかったためこの予測は的中したと言える。

また、大野市からの要請を受け、９月28日には同市のツキノワグマ出没対策連絡会議に出席し、大野市内の出没予測の発表と大量出没時の対応確認を行った。

担当者：　國永知裕

（６）ヤシャゲンゴロウの生息域外保全事業

趣　旨：　国内希少野生動植物種に指定されているヤシャゲンゴロウの生息域外保全を行うために、人工飼育の方法を確立する。

概　要：　飼育室において成虫の交尾、産卵、孵化、蛹化、羽化の一連の飼育を行い、飼育方法を研究する。

結　果：　前年度、自然保護センターで羽化し、越冬した成虫45個体を飼育した。飼育第１世代の全７個体（メス５個体、オス２個体）と飼育第２世代のうち８個体（メス６個体、オス２個体）で繁殖を行わせた結果、６月以降断続的に産卵が認められた。６月９日から23日にかけて合計136匹の幼虫が孵化し、そのうち62個体が蛹化、57個体が羽化した。今年度の累積生存率は幼虫期（孵化から蛹化までの期間）で45.6%、成虫期（羽化後年度末までの期間）で35.1%であった。

今年度は幼虫の餌として初令幼虫、２令幼虫にはミジンコ、カ類の幼虫（ボウフラ）を与え、３令幼虫以降ではボウフラとモリアオガエルの幼生（オタマジャクシ）主な餌として与えた。なお２令以降の一部の個体について、ミジンコのみを与えたものとボウフラのみを与えたもので幼虫期の生存率を比較したが、差は認められなかった。また、簡易に養殖できる餌として試験的に非飛翔性のショウジョウバエを３令幼虫に与えたが、水面に浮かぶショウジョウバエに反応しない個体やうまく捕食できない個体が多く認められた。

蛹化の際には蛹化用土にあぜ波シートを突き刺すことで、幼虫が蛹化の際に好む小凹地を複数創出し、個体間での蛹化場所の重複回避を図った。

担当者：　加藤幸洋・國永知裕・伴紀好

（７）ブナ林衰退地域における総合植生モニタリング手法の開発
（国立環境研究所：地環研等共同研究Ⅱ型共同研究）

趣　旨：　ブナ林域における全国展開可能かつ効率的な総合植生モニタリング手法を開発する。

概　要：　ブナ林は、わが国の冷温帯を代表する森林であり、北海道南部から九州まで広範囲に分布しているが、近年各地で衰退が報告されている。ブナ林衰退の原因としては、オゾンなどのガス状大気汚染物質や酸性霧の関与、ブナハバチなどの虫害、台風等の風害、温暖化や少雪化、林床植生の退行なども含めた土壌乾燥化、さらにはシカの食害等が指摘されている。しかし、健全（衰退）度評価、樹木活性、植生状況、重要な環境要因などに関する調査項目や方法は、衰退地域によって様々であり、全国的な衰退状況把握および原因検討はほとんど行われていない。そこで、ブナ林域における全国展開可能かつ効率的な総合植生モニタリング手法を開発するとともに、ブナ林を有する多くの都道府県が参画する総合植生モニタリングのネットワークを構築する。

成　果：　平家平でのオゾンおよび二酸化窒素濃度測定調査を８月以降３ヶ月間実施した。また、平成28年10月20、21日には、福井県で平成28年度第１回検討会および現地視察を開催し、平成28年度の調査状況の報告と意見交換を行った。また、平家平および平泉寺白山神社、広域基幹林道法恩寺線のブナ林において調査地および調査予定地の現地視察を行った。

担当者：　國永知裕

（８）Ciconia（福井県自然保護センター研究報告）の発行

趣　旨：　センターの調査事業および福井県内の自然に関する調査研究報告を一般に募集し、編集・発行する。

概　要：　Ciconia vol.20掲載論文の一覧

- 梅村信哉．三ノ峰におけるチョウ類群集の多様性と季節変動.
- 梅村信哉．大野市三ノ峰におけるヤドリホオナガスズメバチの記録.
- 北川博正・大西五十二・組頭五十夫・櫻井知栄子・國永知裕．福井県あわら市の常緑広葉樹植栽林に群生するキンラン*Cephalanthera falcata*の生育状況.
- 國永知裕・松村俊幸．2015年の福井県におけるブナ科樹木３種の着果状況.

担当者：　國永知裕

6 そ の 他

（1）福井県自然保護関係機関連絡会議の開催

福井県自然保護関係機関連絡会議は、福井県の自然環境や自然保護に関する調査研究を行っている機関相互の情報交換、共有化を促進し、ネットワークの強化を図るとともに、科学的情報に基づく自然保護の推進に役立てることを目的として設置した組織である。自然保護センターに事務局を置いており、下記の機関が加盟している。

越前町立福井総合植物園、福井市自然史博物館、福井県総合グリーンセンター、福井県海浜自然センター、福井県自然保護センター、福井県里山里海湖研究所

平成28年度には、下記の事業を実施した。

・福井県自然保護関係機関連絡会議の開催

日時　平成29年３月20日（10:00～11:00）

会場　福井県立図書館・文書館１階研修室

参加者　構成機関より６名出席

・平成28年度調査研究事例発表会の開催

日時：平成29年３月20日（13:30～15:15）

会場：福井県立図書館・文書館１階研修室

発表内容：「池ヶ原湿原保全の取組みと希少種の生育状況」

國永知裕（福井県自然保護センター）

「足羽山におけるカンアオイの分布とギフチョウの産卵場所」

中村幸世（福井市自然史博物館）

「環境保全型農法の田んぼの生き物：農家のみなさんと一緒に調査」

石井潤（福井県里山里海湖研究所）

「本県の気候風土に適した早生樹植栽の実証」

黒田美穂（福井県総合グリーンセンター）

「三方湖に生息する希少種イチモンジタナゴの保護・増殖の取り組みについて」

宮田克士（福井県海浜自然センター）

「改訂版福井県レッドデータブックから分かる本県の生物多様性の危機」

松村俊幸（福井県自然保護センター）

参加：29名

・ナチュラリスト80号において「ふくいSATOYAMA学級2017行事案内」を発行

（2）大型野生動物の保定・放獣に関わる指導協力

市町等の要請により、大型野生動物の麻酔薬による保定および放獣の指導を実施した。平成28年度は、有害捕獲および錯誤捕獲により捕獲されたツキノワグマの放獣の際に市町から要請を受け対応した。また出没個体の捕獲対応を行った。

取り扱った大型野生動物個体の一覧

No	月　日	市　町	処置頭数	概　　要
1	５月11日	美浜町	1	錯誤捕獲個体の保定・放獣
2	５月23日	美浜町	1	錯誤捕獲個体の保定・放獣
3	６月26日	大野市	1	有害捕獲個体の保定・放獣
4	11月17日	福井市	2	出没個体対応（捕獲せず）

（3） 鳥インフルエンザのパトロール

経緯：　平成29年１月15日に石川県加賀市で回収された死亡野鳥（ヒシクイ）の簡易検査を実施したところ陰性だったが、遺伝子検査機関で検査を行ったところ、18日にＡ型鳥インフルエンザの

陽性反応が出たため、回収地点の周辺10㎞圏内が野鳥監視重点区域に指定（１月18日）された。このため福井県では、隣接する北潟湖周辺で死亡野鳥のパトロールを実施した。

期間：　平成29年１月19日～平成29年３月15日の56日間
（１月29日に２例目の死亡野鳥の陽性反応が出たため、監視期間（45日）が延長）

調査体制：自然保護センター職員、日本野鳥の会会員、鳥獣保護管理員が２名一組（調査員１名、記録者１名）となり調査を実施　延べ113人

方法：　北潟湖を７エリアに分け、双眼鏡または目視により捜索し、野鳥の死亡個体を回収した。回収した死亡個体は検査機関に送付し、鳥インフルエンザウイルスの有無を検査したが鳥インフルエンザウイルスは確認されなかった。

また、ガンカモ科鳥類やカワウ等の種毎の生息羽数をあわせてカウントした。

（４）　職員の派遣

他機関等からの要請に応じ、センターの担当職員を講師として派遣した。

講　師	活　動　名	場　所	実施年月日	主　催　者
丸山勝治 國永知裕	村岡小学校ミチノクフクジュソウ開花観察会	勝山市北谷町小原	平成28年４月11日	小原ECOプロジェクト
松村俊幸 加藤幸洋 國永知裕	水生生物観察会	勝山市平泉寺町 池ヶ原湿原	平成28年５月６日	平泉寺小学校
松村俊幸 國永知裕	水生生物観察会	三国町陣ヶ岡 丘陵地	平成28年６月27日	雄島小学校
松村俊幸 國永知裕	夏の湿原の昆虫採集と希少植物開花状況調査	勝山市平泉寺町 池ヶ原湿原	平成28年７月１日	平泉寺小学校
丸山勝治 國永知裕	村岡小学校ミチノクフクジュソウ保全作業・保全看板つくり	勝山市北谷町小原	平成28年７月７日	小原ECOプロジェクト
松村俊幸 丸山勝治 國永知裕	オオハンゴンソウ除去活動	勝山市平泉寺町 池ヶ原湿原	平成28年７月19日	平泉寺小学校
宮下欣也	勝山市豊かな自然体験活動	勝山市東山いこいの森	平成28年７月28日	勝山市教育委員会
國永知裕	新規採用教員研修	自然保護センター	平成28年８月４日	福井県教育研究所
松村俊幸	平成28年度自然再生士特別認定講習会　いきもの講座(２)	福井駅西口再開発ビルハピリン	平成28年８月28日	一般財団法人　日本緑化センター
松村俊幸	平成29年度愛鳥週間用ポスター原画審査会	福井県庁	平成28年９月26日	福井県自然環境課
松村俊幸 國永知裕	水生生物観察会	三国町陣ヶ岡 丘陵地	平成28年10月３日	雄島小学校
國永知裕	奥越青少年自然の家経ヶ岳紅葉登山前日オリエンテーション	奥越青少年自然の家	平成28年10月15日	奥越青少年自然の家
丸山勝治 加藤幸洋	村岡小学校ミチノクフクジュソウ保全作業	勝山市北谷町小原	平成28年10月21日	小原ECOプロジェクト
松村俊幸 丸山勝治 國永知裕	秋の湿原の昆虫採集と希少植物およびオオハンゴンソウの種調べ	勝山市平泉寺町 池ヶ原湿原	平成28年10月26日	平泉寺小学校

丸山勝治 國永知裕	ヨシ刈り活動	勝山市平泉寺町 池ヶ原湿原	平成28年11月４日	平泉寺小学校
松村俊幸	第66次教育研究福井県集会第９分科会 （教科（総合／生活））	大野市学びの里 めいりん	平成28年11月５日	福井県教職員組合、福井県教職員組合大野支部
松村俊幸	どこでもだれでも生物多様性の保全再生!	勝山南部中学校	平成28年12月９日	勝山南部中学校
松村俊幸	小中学校の発達段階に応じた環境教育の進め方講演会	奥越高原青少年自然の家	平成29年２月24日	奥越高原青少年自然の家

（5）学会・研究集会・シンポジウムでの発表

自然保護センターで行った調査研究の成果を発表した。

発表者	学会等の名称	発表テーマ
國永知裕	国立環境研究所，「山地森林域の生物・環境モニタリング」中間報告会．福井県自然保護センター（福井），10月21日．	福井県大野市平家平のブナ優占林におけるオゾン濃度の推移

（6）委員の受託など

他機関等から委嘱された委員等への就任を受託した。

氏名	団体名称	事務局
松村俊幸	奥越地域自然環境検討会	国土交通省福井河川国道事務所
	永平寺大野道路自然環境検討会	国土交通省福井河川国道事務所
	冠山峠道路自然環境検討会	国土交通省福井河川国道事務所
	福井県流域環境ネットワーク協議会河道技術部会	国土交通省福井河川国道事務所
	吉野瀬川ダム自然環境検討会	吉野瀬川ダム建設事務所
	河内川ダム自然環境検討会	河内川ダム建設事務所
	北潟湖の自然再生に関する協議会	あわら市生活環境課
	鳥獣保護管理プランナー	環境省自然環境局
	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー	農林水産省生産局
國永知裕	国立環境研究所客員研究員	国立研究開発法人国立環境研究所

（7）特別企画など

ゴールデンウィーク、夏休み、六呂師高原アルプス音楽祭など連休等に特別企画イベントを開催し、入館者の増を図った。

〈平成28年度連休等での特別企画の実施状況〉

特別企画の内容	実施月日	場所	参加者
ゴールデンウィーク特別企画 「森の材料で工作しよう」	５月３日～ ５月５日	工作室	313名
夏休み特別企画 「土曜の夜はライトトラップだ」	７月23日 ８月６日	学習広場	219名
夏休み特別企画 「森の材料で工作しよう」	７月31日 ８月７日	工作室	193名
夏休み特別企画 「鷹匠デモンストレーション」	８月14日	学習広場	80名

アルプス音楽祭 「押し葉のしおり作り」	9月18日 9月19日	ウォーキングセンター	157名
アルプス音楽祭 「森の材料で工作しよう」	9月18日 9月19日	ウォーキングセンター	103名
アルプス音楽祭 「缶バッジをつくろう」	9月18日 9月19日	ウォーキングセンター	147名

（8）事業協力を行った関係団体

以下の団体・機関等と連携・協力して各事業を実施した。

① 指導普及事業

ア 自然観察会など

福井県自然観察指導員の会、日本野鳥の会福井県、福井ライフ・アカデミー、福井大学理数系教員養成拠点構築事業

イ 自然愛護

福井県獣医師会

ウ 里地里山の保全、普及

安島区自治会、えろもんのふけを守る会、エコネイチャー・さかい、越前松島水族館、坂井市環境推進課、小原ECOプロジェクト、環境省白山保護官事務所、勝山市教育委員会史蹟整備課、福井県奥越農林総合事務所、福井大学教育地域科学部地域政策講座、オキナグサを蘇らせる会、平泉寺町まちづくり推進協議会、マイランEPD合同会社、ケイテーテクシーノ株式会社、勝山ロータリークラブ、ノーム自然環境教育事務所、福井県自然観察指導員の会、山田兄弟製紙株式会社、勝山市立平泉寺小学校、勝山市環境政策課、奥越高原青少年自然の家、福井県奥越高原牧場

エ 天体観望会など

オヤット天文クラブ、八ツ杉天体観測所、奥越星を見る会、奥越高原青少年自然の家、東山いこいの森キャンプ場

オ 職員派遣

小原ECOプロジェクト、陣ヶ岡丘陵地域生物多様性保全協議会、福井県奥越高原青少年自然の家、勝山市立平泉寺小学校、福井県自然観察指導員の会

② 研修養成事業

福井県自然観察指導員の会、福井県インターンシップ推進協議会、福井県経営者協会、大野市尚徳中学校、福井県教育研究所

③ 調査研究事業

日本野鳥の会福井県、石川県白山自然保護センター、富山県農林水産総合技術センター、信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設、国立環境研究所

④ 福井県自然保護関係機関連絡会議事業

福井市自然史博物館、越前町立福井総合植物園、福井県総合グリーンセンター、福井県海浜自然センター、福井県里山里海湖研究所

Ⅲ　その他

1　1年のあゆみ

４月１日　メメールマガジン「みみずく通信PC版161号162号，携帯版98号99号」配信
４月７日　ツキノワグマ出没対策連絡会（県庁　正庁）
４月８日　メールマガジン「みみずく通信PC版163号，携帯版100号」配信
三方五湖自然再生協議会（若狭町）
４月11日　ミチノクフクジュソウ開花観察会　講師派遣（勝山市小原）主催：小原ECOプロジェクト
４月16日　メールマガジン「みみずく通信PC版164号，携帯版101号」配信
平泉寺小学校池ヶ原湿原観察会
４月17日　メールマガジン「みみずく通信PC版165号，携帯版102号」配信
特別天体観望会「水星、月、木星をみよう」
陣ケ岡丘陵地区自然再生協議会（坂井市）
４月23日　メールマガジン「みみずく通信PC版166号，携帯版103号」配信
４月28日　メールマガジン「みみずく通信PC版167号，携帯版104号」配信
４月29日　～４日　星空観望ゴールデンウィーク「木星・春の銀河をみよう」
４月30日　メールマガジン「みみずく通信PC版168号169号，携帯版105号106号」配信
５月３日　～５日　ゴールデンウィーク特別企画森の材料で工作しよう
５月６日　メールマガジン「みみずく通信PC版170号，携帯版107号」配信
平泉寺小学校池ヶ原湿原観察会
５月10日　白山ユネスコエコパーク拡張シンポジウム（石川県白山市）
５月14日　メールマガジン「みみずく通信PC版171号，携帯版108号」配信
５月20日　メールマガジン「みみずく通信PC版172号，携帯版109号」配信
５月21日　メールマガジン「みみずく通信PC版173号，携帯版110号」配信
５月22日　獣医師会総会（ＡＯＳＳＡ）
５月27日　池ヶ原湿原連絡協議会（勝山市）
５月28日　メールマガジン「みみずく通信PC版174号，携帯版111号」配信
自然観察ウォーク「春の今庄・燧ヶ城址の自然」（南越前町）
共催：福井県自然観察指導員の会
５月31日　特別天体観望会「火星・地球最接近！」（自然保護センター）
６月２日　～３日　外来魚駆除（九頭竜湖）
６月３日　メールマガジン「みみずく通信PC版175号，携帯版112号」配信
６月11日　メールマガジン「みみずく通信PC版176号，携帯版113号」配信
自然観察ウォーク「棚田と鷹巣城址の自然」（福井市）共催：福井県自然観察指導員の会
６月12日　天文講演会（福井市）
６月18日　メールマガジン「みみずく通信PC版177号178号，携帯版114号115号」配信
６月23日　メールマガジン「みみずく通信PC版179号，携帯版116号」配信
６月24日　鳥獣害対策会議（県庁）
６月25日　メールマガジン「みみずく通信PC版180号，携帯版117号」配信
自然観察ウォーク「六呂師高原ぐるっと１万歩」（大野市）
共催：福井県自然観察指導員の会
６月26日　池ヶ原湿原連絡協議会ヨシ刈り活動（勝山市）
６月28日　雄島小学校観察会（坂井市）
７月１日　平泉寺小学校池ヶ原湿原観察会
７月２日　メールマガジン「みみずく通信PC版181号，携帯版118号」配信
７月３日　池ヶ原湿原ガイド「ミズチドリの観察とミニよしず作り」（勝山市）
共催：福井県自然観察指導員の会
外来生物駆除説明会（あわら市）
７月７日　特別天体観望会「七夕の夜」（自然保護センター）

ミチノクフクジュソウ保全活動　講師派遣（勝山市小原）主催：小原ECOプロジェクト
7月9日　メールマガジン「みみずく通信PC版182号，携帯版119号」配信
7月15日　メールマガジン「みみずく通信PC版183号，携帯版120号」配信
7月17日　特別天体観望会「惑星大観望会」（自然保護センター）
7月19日　平泉寺小学校池ヶ原湿原観察会
7月22日　天文教室「天体望遠鏡を作ってみよう！」（自然保護センター）
7月23日　メールマガジン「みみずく通信PC版184号，携帯版121号」配信
夏休み標本教室「作ってみよう植物標本」（自然保護センター）
共催：福井県自然観察指導員の会
夏休み特別企画「土曜の夜はライトトラップだ！」
7月29日　天文教室「手作り星座早見盤で星座をさがそう！」（自然保護センター）
7月30日　メールマガジン「みみずく通信PC版185号，携帯版122号」配信
7月31日　夏休み特別企画「森の材料で工作しよう」
8月5日　メールマガジン「みみずく通信PC版186号，携帯版123号」配信
天文教室「天の川の撮影に挑戦！（固定撮影）」（自然保護センター）
8月6日　メールマガジン「みみずく通信PC版187号，携帯版124号」配信
夏休み標本教室「作ってみよう昆虫標本」（自然保護センター）
共催：福井県自然観察指導員の会
夏休み特別企画「土曜の夜はライトトラップだ！」
8月7日　池ヶ原湿原ガイド「コバギボウシのお花畑の観察とミニよしず作り」（勝山市）
共催：福井県自然観察指導員の会
夏休み特別企画「森の材料で工作しよう」
8月9日　～27日　堅果類豊凶調査（県内）
8月12日　メールマガジン「みみずく通信PC版188号，携帯版125号」配信
天文教室「ペルセウス座流星群をみよう」（自然保護センター）
8月13日　特別天体観望会「お盆には星を」（自然保護センター）
8月14日　夏休み特別企画「鷹匠デモンストレーション」
8月19日　メールマガジン「みみずく通信PC版189号，携帯版126号」配信
8月27日　メールマガジン「みみずく通信PC版190号，携帯版127号」配信
8月30日　北潟湖自然再生会議（あわら市）
9月3日　メールマガジン「みみずく通信PC版191号，携帯版128号」配信
9月5日　ヤシャゲンゴロウ飼育・繁殖実務担当者会議（石川県白山市）
9月6日　北潟湖自然再生会議（あわら市）
9月9日　メールマガジン「みみずく通信PC版192号，携帯版129号」配信
9月14日　ツキノワグマ出没対策連絡会（県庁　正庁）
9月15日　特別天体観望会「中秋の名月」（自然保護センター）
9月16日　メールマガジン「みみずく通信PC版193号，携帯版130号」配信
9月17日　～19日　特別天体観望会「シルバーウィークの夜」（自然保護センター）
9月18日　～19日　アルプス音楽祭
9月23日　メールマガジン「みみずく通信PC版194号，携帯版131号」配信
9月24日　自然観察ウォーク「杉津の旧北陸線跡をたどる」（敦賀市）
共催：福井県自然観察指導員の会
9月25日　北潟フォーラム（あわら市）
9月30日　メールマガジン「みみずく通信PC版195号，携帯版132号」配信
10月3日　雄島小学校観察会（坂井市）
10月8日　メールマガジン「みみずく通信PC版196号，携帯版133号」配信
10月9日　天文教室「親子でじっくり天体観望」（自然保護センター）
陣ケ岡丘陵地区自然再生協議会（坂井市）
10月14日　メールマガジン「みみずく通信PC版197号，携帯版134号」配信
10月15日　自然保護セミナー「コケを見分けよう」（勝山市平泉寺町）
共催：福井県自然観察指導員の会
10月18日　環境省ヤシャゲンゴロウ生息個体数調査（南越前町）

10月21日　ミチノクフクジュソウ保全活動講師派遣（勝山市小原）
主催：小原ECOプロジェクト
10月22日　メールマガジン「みみずく通信PC版198号，携帯版135号」配信
10月23日　池ヶ原湿原連絡協議会ヨシ刈り活動（勝山市）
10月26日　平泉寺小学校池ヶ原湿原観察会
10月28日　メールマガジン「みみずく通信PC版199号，携帯版136号」配信
10月29日　自然観察ウォーク「深坂古道　紫式部が歩いた道」（敦賀市）
共催：福井県自然観察指導員の会
11月１日　あわら市後谷ため池外来種駆除
11月２日　天文教室「天体撮影に挑戦！（直焦点撮影）」（自然保護センター）
11月４日　メールマガジン「みみずく通信PC版200号，携帯版137号」配信
平泉寺小学校池ヶ原湿原ヨシ刈り
11月９日　トミヨ復活放流会（鯖江市）
11月11日　メールマガジン「みみずく通信PC版201号，携帯版138号」配信
11月15日　28年度狩猟指導取締り（県内）
11月18日　メールマガジン「みみずく通信PC版202号，携帯版139号」配信
11月22日　特別天体観望会「天王星、海王星・晩秋の星雲・星団をみよう」（自然保護センター）
11月23日　メールマガジン「みみずく通信PC版203号，携帯版140号」配信
ふるさと環境フェア２０１６出展（福井市）
12月２日　メールマガジン「みみずく通信PC版204号，携帯版141号」配信）
12月３日　メールマガジン「みみずく通信PC版205号，携帯版142号」配信
12月９日　メールマガジン「みみずく通信PC版206号，携帯版143号」配信
12月16日　メールマガジン「みみずく通信PC版207号，携帯版144号」配信
12月22日　クマ特定計画改定検討委員会（県庁）
12月24日　メールマガジン「みみずく通信PC版208号，携帯版145号」配信
１月７日　メールマガジン「みみずく通信PC版209号，携帯版146号」配信
１月８日　メールマガジン「みみずく通信PC版210号，携帯版147号」配信
１月13日　メールマガジン「みみずく通信PC版211号212号，携帯版148号149号」配信
１月19日～３月15日　鳥インフルエンザパトロール57日間、延べ115人参加（北潟湖周辺）
１月20日　メールマガジン「みみずく通信PC版213号，携帯版150号」配信
１月25日　メールマガジン「みみずく通信PC版214号，携帯版151号」配信
１月26日　メールマガジン「みみずく通信PC版215号，携帯版152号」配信
１月27日　メールマガジン「みみずく通信PC版216号，携帯版153号」配信
１月28日　メールマガジン「みみずく通信PC版217号，携帯版154号」配信
２月３日　メールマガジン「みみずく通信PC版218号，携帯版155号」配信
２月５日　メールマガジン「みみずく通信PC版219号，携帯版156号」配信
２月10日　メールマガジン「みみずく通信PC版220号，携帯版157号」配信
池ヶ原湿原連絡協議会（勝山市）
２月11日　里山観察ウォーク「生きもの冬ものがたり　－スノシューで行く雪の里山－」（自然保護センター）共催：福井県自然観察指導員の会
２月13日　ＪＰＡ北陸プラネタリウムワーキンググループ（石川県金沢市）
２月17日　メールマガジン「みみずく通信PC版221号，携帯版158号」配信
２月24日　メールマガジン「みみずく通信PC版222号，携帯版159号」配信
２月27日　ヤシャゲンゴロウ保全連絡協議会（敦賀市）
３月10日　メールマガジン「みみずく通信PC版224号，携帯版161号」配信
３月17日　メールマガジン「みみずく通信PC版225号，携帯版162号」配信
３月20日　自然保護関係機関連絡会議（福井市）
３月24日　メールマガジン「みみずく通信PC版226号，携帯版163号」配信
陣ケ岡丘陵地区自然再生協議会（坂井市）
３月25日　メールマガジン「みみずく通信PC版227号，携帯版164号」配信
３月31日　メールマガジン「みみずく通信PC版228号，携帯版165号」配信

2　施設利用実績

①　利用実績表

ア　本館・野外（館内・自然観察の森ガイド）　　（　）内は内数　　（人）

区分		団体	一般	合計人数
本館		166団体　8,363	17,167	25,530
内訳	本館見学	（132団体　6,409）	15,530	21,939
	館内・自然観察の森ガイド	（34団体　1,954）	1,637	3,591

イ　観察棟（天体観望会およびプラネタリウム等）　　（　）内は内数　　（人）

区分		団体	一般	合計人数
観察棟		145団体　7,077	5,514	12,591
内訳	天体観望会	（70団体　3,483）	（724）	（4,207）
	プラネタリウム	（75団体　3,594）	（2,118）	（5,712）
	特別観望会・天文教室		（1,313）	（1,313）
	昼の天体観望会		（1,359）	（1,359）

②　団体利用内訳

ア　本館　H28

月	団体数	人数	団体数内訳							
			公民館・児童館・公共団体など	幼稚園・保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	6	251	1	2	0	1	0	0	0	0
6	23	1,712	0	4	13	0	0	0	0	6
7	20	700	0	2	4	1	0	0	0	14
8	27	1,301	6	7	0	0	0	0	1	11
9	17	1,212	2	9	2	0	0	0	0	2
10	14	512	0	10	2	2	0	0	0	0
11	7	186	0	0	0	2	0	0	0	7
12	2	50	2	0	0	0	0	0	0	0
1	10	315	2	5	1	0	0	0	0	2
2	5	110	0	2	1	0	0	0	0	2
3	1	60	0	0	0	0	0	0	0	1
計	132	6,409	13	41	23	9	0	0	1	45

イ　野外（観察の森ガイド等）

月	団体数	人数	団体数内訳							
			公民館・児童館・公共団体など	幼稚園・保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	5	274	0	3	1	1	0	0	0	0
6	4	173	0	3	1	0	0	0	0	0
7	7	314	1	1	1	1	0	0	1	2
8	7	425	1	4	0	0	0	0	0	2
9	2	175	0	1	0	1	0	0	0	0
10	2	141	0	0	1	0	1	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	1	43	0	1	0	0	0	0	0	0
1	5	366	0	2	1	2	0	0	0	0
2	1	43	0	1	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	34	1,954	2	16	5	5	1	0	1	4

ウ　天体観望会（夜・昼）

月	団体数	人数	団体数内訳							
			公民館・児童館・公共団体など	幼稚園・保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	2	27	0	0	0	0	0	0	0	2
5	10	515	0	0	6	1	1	0	1	1
6	12	880	0	2	6	0	0	1	1	2
7	16	719	3	0	5	1	1	0	1	5
8	13	548	3	3	1	1	0	0	0	5
9	5	316	0	0	1	2	1	0	1	0
10	8	377	0	0	2	2	1	0	0	3
11	4	101	1	0	1	0	0	0	0	2
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	70	3,483	7	5	22	7	4	1	4	20

エ　プラネタリウム

月	団体数	人数	団体数内訳							
			公民館・児童館・公共団体など	幼稚園・保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	2	27	0	0	0	0	0	0	0	2
5	8	409	0	1	4	1	1	0	1	2
6	13	826	0	2	7	0	0	1	1	2
7	19	878	4	1	5	1	1	0	1	6
8	13	572	4	3	1	1	0	0	0	4
9	7	374	0	1	2	2	0	0	1	1
10	7	395	0	1	2	2	1	0	0	1
11	2	21	0	0	0	0	0	0	0	2
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	3	56	0	1	1	0	0	0	0	1
3	1	36	36	0	0	0	0	0	0	0
計	75	3,594	44	10	22	7	3	1	4	21

3　運営会議

・福井県自然保護センターを効率的に運営するために、運営会議を設置した。

福井県自然保護センター運営会議委員任期　平成27年４月１日～平成29年３月31日

	氏　名	勤務先・所属団体	専門分野等
会　長	保科　英人	福井大学教育地域科学部　准教授	昆虫
副会長	南部　友子	元大野青年会議所　ふるさと環境委員会委員長	環境
委　員	湯川　　直	大野市　産経建設部　観光振興課長	行政
委　員	酒井　敬治	日本野鳥の会福井県　代表	鳥類
委　員	山本　俊夫	奥越星を見る会 会長	天文
委　員	組頭五十夫	福井県自然観察指導員の会　会長	鳥類
委　員	坂本　道子	ノーム(GNOMES)自然環境教育事務所　副代表	自然教育
委　員	山岸登美子	ふくい緑ネイチャーゲームの会	ネイチャーゲーム
委　員	末永　　巖	大野市阪谷小学校　校長	学校教育
委　員	竹内　和徳	勝山市立成器南小学校 校長	学校教育

※所属等は平成28年４月１日現在。

4　気象データ

平成28年１月～12月　　観測地：福井県自然保護センター芝生広場

	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備　考
日平均気温	上旬	3.5	-0.4	5.4	12	15.4	17.5	23.1	24	22.8	18.7	7.7	5.8	
	中旬	0	3.6	5.2	10.7	15.7	20.1	21.6	24.2	20.4	14.8	10.6	3.2	
	下旬	-0.6	1.1	5.3	12.5	18.5	19.4	23.3	23	20	12.1	6.9	3.9	
	月平均	0.9	1.5	5.3	11.7	16.6	19	22.7	23.7	21	15.1	8.4	4.3	
	平年値	0.5	1	4.1	10	14.9	19.2	22.8	24.4	20.3	14.5	9.3	3.6	
日最高気温（平均）	上旬	6.2	2.8	8.5	16.3	19.7	22.3	27.4	28.5	27.4	22.8	12.5	9.2	
	中旬	2.8	7.5	9.6	16.3	21.3	23.5	25.6	29	23.2	19.9	14.5	6.5	
	下旬	2.7	4.9	10.8	16.9	23.4	23.4	27.8	27.1	23.2	16.7	10.3	7.4	
	月平均	3.9	5.1	9.7	16.5	21.5	23.1	27	28.2	24.6	19.7	12.4	7.7	
	平年値	3.9	4.9	8.8	15.3	20.5	23.6	26.8	28.6	24.4	19	12.2	6.7	
日最低気温（平均）	上旬	1.6	-3	2.3	8	11.4	13.2	20	13.3	19.1	14.6	3.5	2.7	
	中旬	-2.2	0.3	1.2	5.1	10.8	16.9	18.5	21.3	18.4	11	6.4	0.4	
	下旬	-3.1	-2.4	0.8	8.4	14.3	16	20.2	20	17.2	7.3	3.5	0.3	
	月平均	-1.3	-1.7	1.4	7.2	12.3	15.4	19.6	18.2	18.3	10.9	4.5	1.1	
	平年値	-2.4	-2.6	-0.2	5	10.1	15.3	19.5	20.5	16.2	10.3	5	0.6	
積　雪（最深積雪）	上旬	20	88	68								0	1	最深積雪 127㎝ 1月26日 初雪日 11月9日
	中旬	85	58									0	20	
	下旬	127	36										20	

（注）平年値：平成９年～27年までの平均値　　（注）初雪日：自然保護センターでの初雪の日

4　関係条例・規則

○福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例

平成二年三月二十七日
福井県条例第四号
改正　平成八年三月三一日条例第一二号
平成一一年三月一六日条例第一四号
平成二六年三月二〇日条例第一号

福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例を公布する。

福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例

（設置）
第一条　自然保護思想の普及を図り、もって県民の文化の向上に寄与するため、福井県自然保護センター（以下「センター」という。）を設置する。
（位置）
第二条　センターは、大野市に置く。
（業務）
第三条　センターは、次に掲げる業務を行う。
一　自然の観察、研究等のために必要な施設または設備の提供
二　自然の観察、研究等のために必要な助言または指導
三　自然に関する研修会、講習会等の開催
四　自然に関する資料の収集、保管および展示
五　自然に関する調査および研究
六　前各号に掲げるもののほか、センターの設置の目的にふさわしい業務
（職員）
第四条　センターに、所長その他必要な職員を置く。
（施設等の使用の承認）
第五条　センターの施設または設備を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。
（使用料）
第六条　センターの施設または設備を使用する者は、別表に掲げる使用料を納付しなければならない。
2　既に納付した使用料は、還付しない。ただし、知事が特に必要があると認めるときは、この限りでない。
（使用料の減免）
第七条　知事は、特に必要があると認めるときは、使用料の全部または一部を免除することができる。
（委任）
第八条　この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。
附　則
この条例は、平成二年四月一日から施行する。
附　則（平成八年条例第一二号）
この条例は、平成八年四月一日から施行する。
附　則（平成一一年条例第一四号）
この条例は、平成十一年四月一日から施行する。
附　則（平成二六年条例第一号）抄
（施行期日）
1　この条例は、平成二十六年四月一日から施行する。
別表（第六条関係）
（平八条例一二・平一一条例一四・平二六条例一・一部改正）
一　施設

区　　分	金　　額		
	9時から12時まで	12時から17時まで	9時から17時まで
レクチャーホール	2,780円	4,530円	7,300円
会　議　室	740円	1,340円	2,080円
工　作　室	1,440円	2,260円	3,700円

二　設備

区　　分	金額1回（5時間以内）につき
ワイヤレスマイク	200円
カセットテープレコーダー	200円
スライド映写機	530円
十六ミリ映写機	2,880円
ビデオテープレコーダー	1,340円

○福井県自然保護センターの管理運営に関する規則

平成２年３月27日
福井県規則第４号

福井県自然保護センターの管理運営に関する規則を公布する。

福井県自然保護センターの管理運営に関する規則

（趣旨）
第一条　この規則は、福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例（平成二年福井県条例第四号。以下「条例」という。）第八条の規定に基づき、福井県自然保護センター（以下「センター」という。）の管理および運営に関し必要な事項を定めるものとする。
（開館時間および入館時間）
第二条　センターの本館の開館時間は、午前九時から午後五時までとする。ただし、入館時間は、午後四時三十分までとする。
2　センターの観察棟の開館時間は、午前九時から午後九時三十分までとする。ただし日曜日の開館時間は、午前九時から午後五時までとする。
3　福井県自然保護センター所長（以下「センター所長」という。）は、必要があると認めるときは、前二項の開館時間および入館時間を変更することができる。
（休館日）
第三条　センターの休館日は、次に掲げる日とする。ただし、第一号または第二号に掲げる日が七月二十一日から八月三十一日までの日である場合には、休館日としないものとする。
一　月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第百七十八号）第三条に規定する休日（以下「休日」という。）に該当する場合を除く。）
二　休日の翌日（土曜日、日曜日または休日に該当する場合を除く。）
三　十二月二十八日から翌年の一月四日までの日（前二号に該当する場合を除く。）
2　センター所長は、必要があると認めるときは、前項の休館日を変更することができる。
（平一三規則二九・平一五規則一四・一部改正）
（入館の拒否）
第四条　センター所長は、センターに入館しようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、入館を拒否することができる。
一　他人に危害を加え、または迷惑を及ぼすおそれがあるとき。
二　施設または展示品を損傷するおそれのあるとき。
三　前二号に掲げるもののほか、センターの管理上支障があると認められる行為をするおそれのあるとき。
（入館者の遵守事項）
第五条　センターに入館した者（以下「入館者」という。）は、次に掲げる事項を守らなければならない。
一　展示品（特に指定した展示品を除く。）に触れないこと。
二　展示品の近くで、インキ、墨等を使用しないこと。
三　承認を受けないで展示品の構造、模写または撮影をしないこと。
四　所定の場所以外で喫煙または飲食をしないこと。

五　他人に危害を及ぼし、または迷惑となる行為をしないこと。
六　その他係員の指示に従うこと。
2　センター所長は、入館者が前項の規定に違反したときは、その者に対して退館を命じ、または必要な措置をとることができる。
（施設等の使用の承認）
第六条　条例第五条の規定により、センターの施設または設備の使用の承認を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用承認申請書（様式第一号）をセンター所長に提出しなければならない。
2　センター所長は、前項の申請に対し使用を承認したときは、福井県自然保護センター使用承認書（様式第二号）を交付する。
（使用者の遵守事項）
第七条　センターの施設または設備を使用する者（以下「使用者」という。）は、次に掲げる事項を守らなければならない。
一　承認を受けた使用内容を変更しないこと。
二　センターの施設または設備をき損し、または汚損しないこと。
三　使用の承認を受けた施設もしくは設備を転貸し、または当該承認に基づく権利を譲渡しないこと。
四　館内の秩序または風俗を乱す行為をしないこと。
五　承認を受けないで作品、物品等の販売、寄附金の募集、立看板の掲示その他これらに類する行為をしないこと。
六　前各号に掲げるもののほか、センターの管理上支障がある行為をしないこと。
2　センター所長は、使用者が前項の規定に違反したときは、センターの使用の承認を取り消すことができる。
3　使用者は、センターの施設または設備の使用を終了したときは、原状に回復しなければならない。
（使用料の還付）
第八条　条例第六条第二項ただし書の規定により、次の各号のいずれかに該当する場合には、使用料を還付することができる。
一　災害その他不可抗力により、施設または設備の使用ができなくなったとき。
二　その他センター所長がやむを得ない事由があると認めるとき。
2　使用料の還付を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用料還付申請書（様式第三号）に領収書または福井県自然保護センター使用承認書を添えてセンター所長に提出しなければならない。
（使用料の減免）
第九条　条例第七条の規定により、使用料を減免することができる場合およびその減免の額は、次に掲げるとおりとする。
一　県、県内の市町または県内の小学校、中学校、高等学校もしくは特別支援学校が主催する県民のための自然教育、自然保護等に関する事業に使用するとき　使用料に相当する額
二　その他センター所長が特に必要があると認めるとき　センター所長が必要と認める額
2　前項の規定により使用料の減免を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用料減免申請書（様式第四号）をセンター所長に提出しなければならない。
3　センター所長は、前項の申請に対し減免を承認したときは、福井県自然保護センター使用料減免承認書（様式第五号）を交付する。
（平一八規則九・平一九規則二三・一部改正）
（施設等の損傷または滅失の届出）
第十条　入館者および使用者は、センターの施設、設備等を損傷し、または滅失したときは、遅滞なくその旨をセンター所長に届け出て、その指示に従わなければならない。
（その他）
第十一条　この規則で定めるもののほか、センターの管理および運営に関し必要な事項は、知事が別に定める。
附　則
この規則は、平成二年四月一日から施行する。
附　則（平成三年規則第一九号）
（施行期日）
1　この規則は、公布の日から施行する。
（様式に関する経営措置）
2　この規則による改正前の様式に基づいて作成した用紙は、当分の間、所要の調整をして使用することができる。
附　則（平成一三年規則第二九号）
この規則は、平成十三年四月一日から施行する。
附　則（平成一五年規則第一四号）
この規則は、平成十五年四月一日から施行する。
附　則（平成一八年規則第九号）抄
（施行期日）
1　この規則は、平成十八年三月三日から施行する。
附　則（平成一九年規則第二三号）抄
（施行期日）
1　この規則は、平成十九年四月一日から施行する。

様式第１号（第６条関係）（平３規則１９・一部改正）

年　月　日

福井県自然保護センター所長様

申請者　住所
氏名
法人にあっては、その主たる事務所の所在地、名称および代表者の氏名

福井県自然保護センター使用承認申請書

福井県自然保護センターの施設（設備）を使用したいので、次のとおり申請します。

事業名				
主催者名	所在地		電話	
	名称		代表者	
使用施設（設備）				
使用の概略	事業の概要			
	入場料徴収の有無	有　無（料金　　円）		
	推定入場人員数			
	設置する造作物			
使用期間	年　月　日　時　分から 年　月　日　時　分まで			

様式第４号（第９条関係）

年　月　日

福井県自然保護センター所長様

申請者　住所
氏名　　㊞
法人にあっては、その主たる事務所の所在地、名称および代表者の氏名

福井県自然保護センター使用料減免申請書

福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例第７条の規定により、次のとおり使用料の全部（１部）を免除してくださるよう申請します。

減免申請の理由	
事業名	
使用施設（設備）	
使用期間	年　月　日　時　分から 年　月　日　時　分まで
減免を受けようとする額	円

発　行　日　平成29年11月

編集・発行　福井県自然保護センター
〒912－0131
福井県大野市南六呂師169－11－２
電話　0779－67－1655
Ｆａｘ　0779－67－1656

印　　刷　㈱松浦印刷所
電話　0779－66－2357

17.11.14930

平成二十八年度　年報

福井県自然保護センター

健康長寿な福井です。

福井県

福井県自然保護センター

この冊子は再生紙を使用しています